

挨拶

会 長 石 原 啓 資



コロナ騒動も一年半が過ぎようとしています。些かウンザリ感が拭えぬ状況ですが、会員の皆様におかれましては、お元気でお過ごしのこととご推察いたします。

いまだ日本全国で毎日1,000～2,000人の新規感染者数が報告され、死亡者が100人未満となりましたが、数十名の死者が毎日発生しています。コロナウイルスが日本全国で蔓延しているのは事実であり、ご自分の健康、命はご自分で守らねばならぬ事態が続いています。

幸いワクチン接種が急ピッチで進んでいる現状を前向きに捉え、一日でも早く集団免疫が可能な割合まで接種が進むことを切に祈っています。

一方、ウイルスは変異を繰り返しており、日本ではインド変異株（デルタ株）に本年7月～8月頃までに大多数のウイルスが置き換わるのではとの報道もあり、予断を許さない状況は変わらないのではと危惧しています。

第29号会報に、「2021年度総会・懇親会で皆様と元気でお会いできることをたのしみに」とお伝えいたしましたが、先般お葉書でお伝えした如く世話人会会議をリモートにて開催し、会員の皆様の命と健康を守ることを最優先すれば、総会・懇親会を開催すべきではないとの結論に達し、2020年度総会・懇親会、2021年新年会と本年度の総会・懇親会と皆様とお会いできる機会を続けて三度失うこととなり誠に申し訳なく、会員の皆様方にお詫びを申し上げます。本年中に日本全国に集団免疫が行き渡り、2022年新年会にて皆様とお会いできることを期待しています。第30号会報がお手元に届くころには会員の皆様殆どが、第二回目のワクチン接種が終わられていると思います。ご健康には充分お気を付けてお過ごしください。

今6月20日ですが、世間では東京オリンピック・パラリンピック大会の開催方法の議論が盛んに行われております。開催ありきで進められていると推測いたしますので、今更開催反対とは申し上げませんが、感染者拡大を絶対起こさない決意で感染防止を徹底していただきたいと思っています。外出はせず家でTV観戦にて一喜一憂し感染防止に努めたいと考えています。

ちょっと見方を変えて今回の新型コロナ騒動を検証しますと、日本の社会の仕組みに限界が浮き彫りになったのではと思います。行政の統一されたIT化がほとんどなされていない現実、未だFAXでの報告で集計等の手作業に忙殺され本来の仕事が疎かになっている保健所、厚労省の自己保身に徹した保守的思考、政府と地方自治体との不具合、与野党ともに科学的根拠に基づいた論理的に根本的問題の解決力不足等々が顕在化されました。今こそ斯様な根本的問題を将来在るべき姿を想定し一刻も早くデジタル化を基盤とした日本社会に仕組みを変えることが緊急課題と痛感しています。

世界に目を向けると経済社会もアフターコロナを見据えた動きが活発になっています。資源の高騰が見受けられますが、本格的に経済回復が進めば人手不足、供給不足が現実化しインフ

レの懸念が拭えません。米国も2023年度までに金利を数回上げることが報告されています。日本も今まで長年続けたマイナス金利政策が継続されるのか、些か疑問符が付く世界情勢に注視が必要かと思えます。

コロナ禍、後輩たちが奮闘している双日株式会社も当期純利益750億円以上の計画に対し、270億円の結果となりました。大幅未達成でしたが、コロナ禍の環境を鑑みると役職員の皆様方のご努力に敬意を表したいと思います。先日頂戴した株主通信2021夏号では、「不確実性が増す世界のなかで総合商社の原点に立ち返り新たな価値を創造し続けてまいります」との藤本社長様のメッセージが目にとまりました。2030年に「目指す姿」から、今すべきことを考えるとの方針で、本年度から新規三か年計画が進められています。世界が変化する環境を先取りし、変化し続けることが生き続けられる基本ではと認識しています。

他社よりも時代の変化を先取りして生き続ける双日を期待し微力ながら応援をさせていただきます。「頑張れ双日」。

今回の会報発行が30号目となりました。会員の皆様方のご協力にて長年続けられていることに感謝を申し上げ、ニチメン東京社友会が益々年を重ね充実した社友会にするべく世話人会と共に努力を続けてまいります。引き続きご指導ご鞭撻お願い申し上げます。

今回のワクチン接種申し込み方法で、多くのお年寄りがパソコンではなく、電話での予約に殺到した事実を目にして、社友会のホームページの閲覧が少ないこと痛感しました。

然しながら、時代は変わっています。ご親族の方にご協力いただき、パソコン或いはスマホで社友会のホームページをご覧いただくこと一度お試しいただき、現況のご報告等々、会員の相互情報交換の場として活用していただければ誠に嬉しい限りです。

最後になりましたが、今年は例年に比べ暑くなるとの気象庁三か月予報が発表されています。コロナもさることながら、暑さに負けずお元気でお過ごしください。今度こそ来年の新年会でお会い致しましょう。

以 上

2020年度事業報告 及び 収支報告(案)

(期間：2020年7月1日～2021年6月30日)

ニチメン東京社友会

I. 事業報告

	実績	千円 予算
第15回 総会・懇親会開催 (中止)	0	0
会報の発行	770	800
会報28号 2020年8月7日発行		
会報29号 2020年12月7日発行		
ホームページの運用	180	200
第14回 新年会開催 (中止)	64	700
慶弔行事	967	900

II. 収支報告

A) 収入の部

1. 会費	1,185	1,200
2. 双日助成金	2,500	2,500
3. 寄付	86	0
4. その他	8	0
合 計	3,779	3,700

B) 支出の部

1. 総会開催	0	0
2. 新年会開催	64	700
3. 会報の作成	770	800
4. ホームページの運用	180	200
5. 会員慶弔	967	900
6. 世話人会の運営経費	140	300
7. 事務所運営経費	635	850
8. 予備費+雑費	0	50
合 計	2,756	3,800

C) 繰越金及び預り金の部

当期収支残高	1,023	- 100
前期繰越金	1,813	1,813
当期末繰越金残高	2,836	1,713

(預り金)

次年度以降年会費等	327	
双日次年度助成金	625	
預り金残高	952	
合 計	3,788	

2021年度事業計画 及び 収支予算(案)

(期間：2021年7月1日～2022年6月30日)

ニチメン東京社友会

I. 事業計画

	千円	
	予算	前期実績
第16回 総会・懇親会開催 (中止)	0	0
会報の発行 (年二回 会報を作成し送付いたします。)	800	770
ホームページの運用	200	180
第15回 新年会開催 (2022年1月 予定)	700	64
慶弔行事 (長寿対象者 23名)	1,000	967

II. 収支予算

A) 収入の部

1. 会費	1,200	1,185
2. 双日助成金	2,500	2,500
3. 寄付	0	86
4. その他	0	8
合 計	3,700	3,779

B) 支出の部

1. 総会開催	0	0
2. 新年会開催	700	64
3. 会報の作成	800	770
4. ホームページの運用	200	180
5. 会員慶弔	1,000	967
6. 世話人会の運営経費	300	140
7. 事務所運営経費	850	635
8. 予備費+雑費	50	0
合 計	3,900	2,756

C) 繰越金及び預り金の部

当期収支残高	-200	1,023
前期繰越金	2,836	1,813
当期末繰越金残高	2,636	2,836
次年度以降年会費等	0	327
双日次年度助成金	0	625
預り金残高	0	952
合 計	2,636	3,788

会員寄稿文

コロナ禍と読書
「皇帝フリードリッヒ二世の生涯」 塩野七生著

竹 内 可 能

時節といえば今はコロナ禍の真っ最中である。

不要不急の外出は慎めとあるからには、近所の掛かりつけの医者にも月一回飲み薬をもらいに出かけるとか、たまたま今年にあたる運転免許の更新のための外出とかを除けば、普段の飲み友達との付き合いや、好きなゴルフ大会などはすべからず自粛自粛を迫られる。

こうして今頃の寒い1月とか2月を迎えれば、これはもう朝から女房と顔を突き合わせながらの無聊を託つ羽目となる。そんな無聊を慰めるとはいっても、このわたしにできることといえば、読書ぐらいに限られようというものだ。というわけで、わたしは令和3年の年明け早々から、改めて気が向くままの読書に専念することを心に決めた。

さて何を読むとするかだが、この歳になってみれば小説だの評論といっても、全く新しいものに取り掛かるなんて気持ちはさらさらがない。当初わたしは司馬遼太郎の「梟の城」にしようかと考えた。この小説ならたしか40～50年前だったか、読みかけてはみたがあまり面白くなかったせいか、途中で放り出してしまった記憶がある。しかしその後何かの拍子に、複数の評論家がこのフィクションはめっぽう面白いと褒め称えていることを思い出したからだった。

ところが、これが生来わたしの狭い了見というものか、わたしにはどうしても忍者とか幻術というものに馴染みが感じられないのである。それで結局は今度も「梟の城」はやめにした。その代わりにとっては可

笑しいのだが、わたしが手にしたのは、塩野七生の著作になる「皇帝フリードリッヒ二世の生涯」である。

2巻からなるこの本、「皇帝フリードリッヒ二世の生涯」は、今からちょうど7年前の2月に読了したことが、わがサイン入りの日付けでわかる。なぜこんなヨーロッパ中世の男の物語に切り替えたのか、特段の理由があるわけではない。しいていえばわたしの好きな作家といえば、司馬遼太郎に次いで塩野七生であることと、この女人作家の作品の中では「ローマ人の物語」を除けば、飛び切りわたしの好きなのが「皇帝フリードリッヒ二世の生涯」だけだったことだ。今さら長編物の「ローマ人の物語」でもなかろうということで、当節わが無聊をなぐさめるには格好の読み物と考えたわけである。

蛇足ながら、わたしの読書歴のなかで初めて司馬遼太郎の「国盗り物語」を読んだときの強烈な感動は、今も昨日のここのように脳裏を離れない。同じ伝で申せば、初めて塩野七生の「海の都の物語」を読んだときの、あの激しい衝撃は今も忘れることができない。いずれも会社の在職中のことだったが、これらがわたしの本格的な読書歴の始まりだったように思う。

司馬遼太郎という作家は、吉川英治とならんで大の国民作家といわれるだけあって、有名人と市井の人とを問わず、物語るところの対象は人物その人である。そしてその人物たるや、忍者やら剣豪にはじまり、武士・軍人・文人から商人、さらには為政者・天下人にいたるまで、この作家の好みと関心のいたるところ自由自在にして、多士

済々である。

一方の塩野七生はといえば、大学も哲学科の出身だけあって本領は歴史であるせい、彼女の書くものの多くは“初めに歴史ありき”といった気配がある。したがって、彼女の作品群のなかでわたしが最も敬愛する「ローマ人の物語」でも、全巻通してみれば実に多くの人物が描かれてはいるが、彼らはすべて古代ローマ帝国という歴史の流れのなかの皇帝たちであり、彼らを取り巻く人物たちの物語である。というわけで彼女もまたこれまで多くの作品を世に送り出してきたが、司馬遼太郎とちがって、特定の人物に関する伝記風の物語ともなると、当の「皇帝フリードリッヒ二世の生涯」のほかには、「わが友マキアヴェッリ、フィレンツェの存亡」と「チェーザレ・ボルジャ 或いは優雅な冷酷」ぐらいか。

これをみてもお分かりのように、司馬遼太郎と比較してみると、この二人の作家の間には、歴史と人間を見る目の違いがある。ここには司馬遼太郎のように個々の人物を通じて歴史を語るのか、塩野七生のように歴史を通じて人物を語るのかの違いがあるのであろう。この辺が二人の作家のそれぞれの史観というようなものに繋がってゆく分かれ目かと思われる。

「梟の城」を読まずじまいの負い目がある。もう少し司馬遼太郎との比較論を続けさせてもらおう。この国民作家とまでいわれる作家には、歴史上の人物であれ市井の人であれ、この作家の目に焼き付くような、キラリと光る何物かがある限り、彼はその光にじっと目をやり、その光を風船のように目いっぱい膨らませて、茫々たる夢や希望を語る、そうした特技こそ司馬遼太郎独特のものだ。

話を塩野七生の「皇帝フリードリッヒ二世の生涯」に戻そう。

この女人作家は、作品のなかで渾身をふりしぼるようにして、皇帝フリードリッヒ二世という、“世界の驚異”とまで褒めそやされ、歴史上の魁偉というべき足跡をたどる。そして最後はホーヘンシュタウヘンという、出自の皇族一家の悲劇、という形で物語の幕を閉じる。わたしはこの書の冒頭にくる「読者に」と題する作家の、自信ありげな言葉が気に入っている。曰く「中世モノの真打ちの感ある「フリードリッヒ」をお読みになれば、中世とはどういう時代であったかがわかるということ、そしてその中世のなにかが古代とはちがっていて、なぜこの中世の後にルネサンスが起こってきたのかもわかりになるでしょう。」

この作品で作者が主題的に展開するのは、主人公のフリードリッヒ二世が憧れの古代ローマ帝国に倣って、帝王アウグストゥスよろしく、己が統治するシチリア両王国と神聖ローマ帝国（当時はミラノなど北イロンバルディア地方が含まれる）に、文字通り君主制の法治国家再興を目指したことであった。彼こそはイタリア・ルネサンスの先駆的騎手と称されるにふさわしい皇帝、ということができようかと思える。13世紀前半の気宇壮大な物語であった。

この実現を期すために皇帝フリードリッヒ二世がとった施策は二つある。一つには、「メルフィー憲章」、二つ目はナポリ大学の立ち上げであった。これらは、法治国家に必要な不可欠な法整備（ローマ法大全を基に）と、大学における法律家の養成を主としたものだったが、偏にフリードリッヒの功績に帰すべき、文字通り大事業だったと思われる。

今でこそ英国のマグナ・カルタは「大憲章」などと呼ばれて、憲法のはしりのようにいわれているが、塩野七生にいわせれば、歴史的には「メルフィー憲章」こそ、それにふさわしい存在だったらしい。

ついでに言わずもがなとはいえ、塩野七生がこの本の冒頭のご託宣のように、フリードリッヒの生きた中世ヨーロッパが古代ローマ帝国の時代と違うことが、この作品を読んでわかる、という点にも触れておく必要があるようだ。読者のわたし自身その通り納得するからだが、作家の指摘を俟つまでもなく、大まかにいってその違いには二つある。一つは古代の宗教が多神教であったのに対して、中世は絶対的なキリスト教の一神教時代に、様変わりしていたことであった。

この歴史的な違いは、結果的には皇帝フリードリッヒ二世に、致命的なダメージをもたらすことになる。彼はいってみれば、イタリアの地に古代ローマ帝国(法治国家)の再来をもくろんだのだが、その為ゆえに、彼は俗界の支配者として、皇帝派のギベリン党を後ろ盾に、終生敵にまわして闘いを挑み続けたのは、キリスト教(聖界)に君臨する法王に対してであり、法王と結託するロンバルディア地方の、法皇派(ゲルフィ党)のコムーネ群(自治都市)であった。

生前の彼が法王から被ることになる前後3回におよぶ破門や、ただならぬ気配の異端裁判などに、皇帝フリードリッヒの不屈の闘いの跡を見ることができよう。

もう一つの大きな時代の違いは戦力である。

古代ローマ帝国時代は膨大な戦力を擁し、必要とあらばいつでもどこにでも打って出た。史家でもある塩野七生によれば、その力がパクス・ロマーナ(ローマによる平和)の源泉だったように説く。しかし皇帝フリードリッヒ時代には、そうはいかなかった。その理由はいろいろあるだろうが、第一には彼の統治とはいっても、当時の神聖ローマ帝国の内情からして(地政学的な理由だけではない)、ピレネー山脈を越えて北伊への大戦力の移動など想定外といえた。

第2には、イタリア半島を南北に分断して、れっきとして存在する法王領の存在がある。これは先述のように、中世ヨーロッパを支配することになった、キリスト教という一神教社会に関連するのだが、敵対する北伊ロンバルディア地方(法王派)に、南伊(シチリアをふくむ)から戦力を送り込もうにも、法王領を跨ぐというわけにはいかない事情があった。

とまれ皇帝フリードリッヒ二世は、13世紀という己の統治になるこの時代、彼が夢見た丁度1200年も昔の、古代ローマ帝国の時代との間の、宗教上の且つは地政学上の、上述のような歴史的な不利に気づいてはいなかったのか。

彼は世界の驚異とも、反キリストともいわれるだけあって、歴代の法王との闘いなら見事に進め、最後には時の法王をピレネー越えのフランス領の一角に追いやるほどであった。しかしそれとて決定的な勝利というには程遠かったのではないか。

ここまで書いてきたはいいが、残された紙面のことが気になりだしてきた。

ここに作家の塩野七生について思い起こされることがある。その昔「ローマ人の物語」が上梓されたころの話だが、口さがない批評家どもが、この名著というべき著作のなかにも精査すれば、歴史的にいて記述の誤りがあるとして、この著者はいったい作家なのか史家なのかを、問題視したことだった。

が、わたしが今気にしかかっているのはそのことではない。塩野七生は「皇帝フリードリッヒ二世の生涯」の冒頭で、これを読めば、ヨーロッパ中世と、その中世と古代の違いと、中世からルネサンスにいたる経緯がわかるとした。そう宣う時の彼女には、まさしく史家と作家の顔が見え隠れする。読者諸氏にはお願いがある。もしも中世ヨーロッパに多少でも興味のあるお方には、この塩野七生の「皇帝フリードリッ

ヒ二世の生涯」をおすすめしたいのである。

因みにこれに飽き足らないというようなお方には、ホイジンガーという歴史家の名著、「中世の秋」を併読いただければと思う。

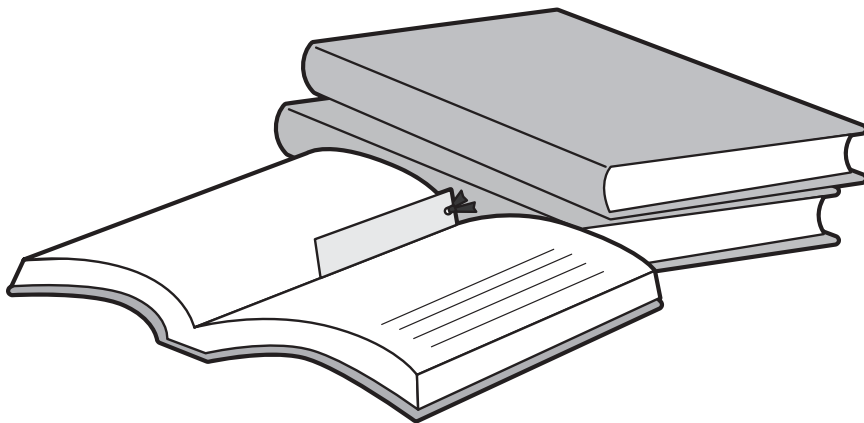
いずれにしても、この作品は作家の塩野七生が丹念に描き込んだフリードリッヒの伝記である。つまりこれはわたしの全くの想像だが、もしも前掲の司馬遼太郎が生きていたらとしたなら、そしてもしも、彼がわが国の国民作家というのではなく、世界的な作家であったとして、もしも“ヨーロッパ中世モノの真打”フリードリッヒ二世を書いたとしたら（これらがわが想像のそのまた前提にはなるのだが）、彼はこの中世の真打たる人物の中にいったいどんな光の陰を見るだろうか。こんなわたしの他愛ない想像が許されるとしたら、作家（史家ではなく）塩野七生の作品になる「皇帝フリードリッヒ二世の生涯」が綴るエピソード群（伝記）のなかにも、司馬遼太郎がひそかに目を光らす何かがありそうな気がして来る。

しかし今はそんな想像はさておき、フリードリッヒの最期のことをここに書き留めて本稿を脱するとしたい。先にも述べたように皇帝フリードリッヒ二世の抱く野望

は、まさに気宇壮大なものだった。しかしその彼が病に倒れたのは、1250年12月、南伊の平原に好きな鷹狩を求めての往路だったという。56歳をまじかに控えたこの時をもって、彼が古代ローマ帝国に見てきた法治国家の再現は、一場の夢と潰えたのである。

伝記作家の塩野七生は、年代記作者によればと断りながら、臨終のフリードリッヒについてこう記しているのが面白い。「このときフリードリッヒが、弱い息の下からベラルドに（註：40年以上にわたってその死まで、皇帝につかえた最腹心、パレルモ大司教だった）、『ポスト・モルティム・ニヒル』（post mortem nihil）と言ったという。『死ねば何もない』とほんとうに言ったのかは怪しい」

因みに筆者ならこう思うだろう。たしかに臨終の際フリードリッヒが、「死ねば何もない」と言ったかどうかはわからない。しかし彼だったら、心のなかでならそう思って死んでいったのではないか。なぜならば、彼の全生涯こそいみじくも、人間“死ねば何もない”ことを物語っているからである。



会員寄稿文

BIS論壇 No.340 『コロナ禍の下の世界経済』

中 川 十 郎

コロナの感染は世界全体で1億人を突破。死者は200万人を超えた。日本でも感染者40万人、死者6000人に近づいた。政府は2月2日、緊急事態宣言の3月7日までのひと月の延期を決定。保証が十分でないところより、特に飲食業界で、店を閉鎖するところも出始めている。柴又の200年以上の歴史ある老舗も閉店。九段のホテルも営業中止を決定した由。

コロナ禍により、On line会議やビジネスが増加し、ポストコロナはIOTや5G、AI、DX、ロボットなどを活用したビジネスや医療関係、社会活動が急速に進展するものと思われる。

コロナ禍をいち早く抑え込んだ中国はIMFの予測では唯一2020年のGDP成長率が2.3%のプラスになるとみられている。米議会予算局によると20年の米国のGDPはマイナス3.5%の大幅景気後退となったが、21年は4.6%プラスの成長を予測。それに比し、IMFは日本の20年のGDP成長は5.1%のマイナス。21年3.1%のプラスだが主要国では21年は最低の成長率である。日本は90年以来、30年間停滞が継続している。コロナを機に2030年を目指し、経済回復に格段の努力が要請される。さもなくば、日本は「年老いた金メダリスト」(近藤大介著『ファクトで読む 米中新冷戦とアフター・コロナ』講談社現代新書 p196)としてアジアからも相手にされなくなるだろう。

日本は米国トランプ政権が脱退後、TPP締結交渉で、2018年12月発効を目指し、主導的役割を果たした。2020年末にEUを正式に脱退した英国政府は2月1日TPP参

加を正式に申請した。英国のアジア関与政策が動き出す。英国が参加するとTPP参加国の世界に占めるGDPは13%から16%に増加。英国とTPP11カ国との2019年の貿易額は16兆円と過去10年間で7割増を記録。軍事面でも英国は今春以降に空母「クイーン・エリザベス」を含む空母打撃群を東アジアに展開する方針とのことだ。英政府は日米が主導する「自由で開かれたインド太平洋構想」への参加にも関心を深めているという。(日経2月1日)

さらに英国はアングロサクソンの諜報組織「ファイブアイ=別名Echelon=はしごの隠語」への日本の参加に米国ともども前向きという。TPPは当初、日米を中心に中国封じ込め策の要素が濃かった。それは安倍政権が中ロ主導のユーラシアの「上海協力機構」への対抗策として打ち出した中央アジアでの「繁栄の弧」戦略に同類の戦略だ。

中国は21世紀に発展の中心となるユーラシア大陸を核とする広域経済圏「一带一路」構想とその融資機関「AIIB=アジアインフラ投資銀行」の融資活動を推進中である。

聖徳太子の「和を以て貴しとなす」の精神と、かつて「アジアは一つ」と唱えた岡倉天心の理想と、「論語と算盤」で経済に論語の精神を取り入れるべしと唱えた澁沢栄一の思想、「資本主義に倫理と哲学」をと力説した宇沢弘文東大名誉教授の信条をコロナ後のアジアの新たな経済発展と平和構築に取り入れることが肝要であると確信する次第である。

会員寄稿文

ミステリ小説断想 (12)

福 富 直 明

1. 単語の誤訳

短い、易しい単語から誤訳が出ることがある。ある翻訳小説で有名な弁護士夫妻が米国本土からハワイに来る。知人が夕食に誘うと、夫人が「わたしたち、お夕食に招待されているの。ここのバーが内輪のディナー・パーティをしてくれるのですって」と言って断る。このパーティの様子は描かれていないので、どんな集まりだったのか分からないが、バーが弁護士を招いてパーティをするというのが、どうもおかしい。酒豪として知られている弁護士なのか。と考えているうちに、このbarは辞書の初めのほうに出てくる一杯ひっかけるバーではなく、その2, 3行下に載っている法曹界のことだろうと思いついた。呑み屋ではなく、地元の弁護士会に招かれたと言っているのだ。

バーと言えば、警察小説のなかで、刑事が欧州戦線の冬の寒さを回想して「バーで樽に触ると、その手が凍りついちゃうんだ。それほど寒かったぜ」(You touched the barrel of your BAR and your hand stuck to it, that's how cold it was.)と語る。バーならビア樽かワインの樽があるだろうから、一見意味が通じる訳文に見えるが、訳者は原文のバーが大文字のBARであるのを見落としていた。刑事が言っているのは、Browning Automatic Rifle (通称BAR)の銃身(barrel)に素手でさわると手が銃身に凍りついてしまうほど寒かったという意味である。

ヴェテランの翻訳家が手がけた小説に「この国ではウイスキーの五分の一が15ド

ルもする」と言う訳文があった。何の五分の一なのか説明がないからボトルの五分の一のように聞こえるが、「五分の一」(a fifth)は辞書に「五分の一ガロン入りの瓶」と載っている。つまり750mlのボトル一本が15ドルもするということだ。この翻訳家、ほかの本でも”He must have put away half the fifth.”という原文を「スコッチのボトルの五分の一くらいあけたはずだ」と訳している。よく見ると、“half”が訳文では脱落しており、half the fifthだと“五分一の半分”という意味不明の文章になると思ったのか、halfを無視することにしたらしい。原著者が言いたかったのは、ボトルの半分も飲んでしまったから、二日酔いになるか知れないということだった。ちょっと意地悪く言うと、一本15ドルの本を訳してからhalf the fifthの本を翻訳したのは20年後である。

ほかの翻訳家も「グラスに五分の一注いで氷を入れたウイスキーを部屋に持ってきてくれ」と迷訳している。たぶんボトル一本と氷が欲しいと注文したのだろう。

checkという単語も誤訳されることが多かった。漠然とした記憶だが、アメリカでクレジットカードが頻用されるようになったのは、1960年代の後半だったと思う。それ以前はポケットの現金以上の買い物をするときは小切手で払うのが普通だったから、60年代以前の小説では小切手で支払う場面がよく出てきた。問題は小切手を意味するcheckには勘定書の意味もあったことだ。主人公がハンバーガー3個とコーヒーの昼飯を終えて「チェックで支払いを済ませて、表通りへ出た」と訳されている1957年の小説があった。その頃でもこの程度の食事代

をチェックで支払うというのは不自然だ。原文は“I paid my check and then went out to the street.”で、このcheckは勘定書のこと、小切手で払ったのなら、前置詞を入れて“I paid by check…”でないとおかしい。ほかの小説でも、泊まっているホテルで食事をして「給仕を呼ぶと、小切手にサインをすませ…」とか「小切手にサインし、20パーセントのチップ加え…」と言った訳文があるが、どちらも誤訳だ。

「偽の小切手を2, 3枚切っちゃたの」と女が白状する。この女、小切手に偽造のような手の込んだ犯罪をやりそうな知能犯には見えないなと思いつつ、次を読むと「まるっきりのデッチ上げじゃなかったのよ。ただの振りだし過ぎだったの」という。原文を見ると“I wrote a couple of bad checks. I wasn't hanging paper. It was just an overdraft.”となっている。bad checkには不渡り小切手と偽造小切手と二つの意味があるが、overdraft だったのだから「偽の小切手」ではなく、「不渡り小切手を切っちゃたの」とでもすべきだったと思う。

bar, fifth, check はどれもやさしい単語だ。ここにこの言葉がでてくるのはなんだか変だぞと気が付かないと、誤訳になる。

ところで、80年代にアメリカに再赴任して、小切手が嫌われている決済手段にまで落ちぶれているのを知った。小切手で払おうとすれば、運転免許証やらIDを見せねばならず、売り手にも買い手にも手間のかかる時代になっていた。

2. すり抜けた迷訳

原稿が本になるまで、訳者自身も読み直し、編集者や校閲係も目を通して、完全な形になって出版されるはずだ。それでもチェック・システムをすり抜けて、ひどい翻訳書が出てくることがある。年間売上高が200億円を超える老舗の出版社が文化・政治・経済など多岐のエピソードを盛り込ん

でニューヨーク市の歴史を綴ったノンフィクションの訳書を出した。面白い本なのだが、何を言っているのか分からない文章が出てくる。下記の引用文もその一つだ。

“モット通りのジョス・ハウスには未来さえ転がっていた。中華街の親方の名前はチャイニーズ・ヘラクレスと呼ばれ、サムソンと言われているクアン大公。彼の前には「嘆願者が引きもきらず、彼らは請願箱を打ちふって、こぼれ落ちた番号棒の数字にしたがってアドバイスを受けた— 妾を囲うべきか、それとも洗濯屋を開くべきか、街の富くじ屋では何番に賭けたらよieldろうか、といったことである。”

これはNY市のチャイナタウンのモット・ストリート界隈の点描である。翻訳者は自分がどんな光景の記述を訳しているのか理解していたとは思えない。jossには親方の意味もあるが、辞書を見れば「(中国人の祭) 神像、偶像」、joss houseは寺院、廟であると載っている。クアン大公は関羽を神格化した関聖帝君、通称、関帝のことで、ジョス・ハウスは横浜の中華街にもある関帝廟のことだ。つまりモット・ストリートの廟にはギリシャ神話のヘラクレス、旧訳聖書のサムソンに匹敵する関帝が祀られており、参詣者たちがおみくじ箱を振って運勢を占っているという光景である。

jossを親方と訳した瞬間から迷走が始まり、訳者のやっつけ仕事が編集者の目をすり抜けて本になってしまった一例である。

会員寄稿文

多民族連邦国家の衰退と孫文の三民主義

山 邑 陽 一

今西錦司の「棲み分けの進化論」を人類社会に応用して考えると、個人が属する部分社会、とりわけ「国家」の統治形態の環境適応性・持続可能性の有無が、個人の生存に大きな影響を与えることがわかる。民主主義の国家では、菅首相のいう自助・共助・公助、社会民主主義国家では公助が、個人の生存（環境適応と生存維持）に大きな影響を与えるからである。元帝国主義国家では、元本国では民主主義が確立している、元植民地では確立していない、あるいはその途上（自治領など）である例がまだ多くの地表に見られ、それが国家と住民の紛争の種となっている。かつての帝国主義国家の植民地統治には二種類の方法があり、西英米らは抑圧政策、ポ仏日などは同化政策を採った。なお米国は独立時の13州が元本国、のち戦争や開拓した獲得した諸州が元植民地であり、ドイツは移民受け入れ大国だが、単一民族ドイツ人による連邦国家である。

元英領の香港では今も民主主義への渴望が強く、民主化リーダー周庭さんが日本語で民主化を訴えたのに対し、台湾では、蔡英文総統が再選時に日本語で、共に民主主義の確立のために頑張ろうと訴え、京大に留学し日本軍に従軍して戦後民主主義台湾の総統となった李登輝の葬儀を盛大に行うなど、日本の植民地統治から民主主義を学んだ台湾と、元英領の香港とで大きな違いがみられる。元ポルトガル領のマカオはその中間にあって、自治領としての地位を今も享受して、新本国・中国との争いはない。

香港・マカオ・台湾の現状と、平等・博

愛なき新自由主義・格差ポピュリズム米国の現状は、鄧小平以降、社会主義から資本主義へと舵を切った中国の将来を考えるうえで、大きな参考となる。政治的には発展途上国である中国を、健全な資本主義の道に歩ませ、再び世界から尊敬されるような平和文化大国に戻すには、自由・平等・博愛の民主主義を確立せねばならない。社会民主主義の道を選ぶかどうかは、中国自身が決めることである。帝国日本の植民地政策は社会民主主義であった（辛島）。それ故インドは戦後も終始日本に好意的であった。最近中国は内蒙古に対し、日本がかつて朝鮮・台湾にしたような同化政策を採り始めたときが、前世紀日本の植民地政策を今から始めるのでは失敗する。より大切なのは孫文が提唱した三民主義（民族主義・民生主義・民権主義）の実践である。

中国は国民党と共産党が協力して、英米の協力を得て、日本帝国主義を清国領土から追い出した（ABCD包囲網）。いま国内格差大国兼対外覇権大国、米国の攻勢から中国を救うのは、民進党と共産党の協力である。ソ連邦以来成功しない共産党独裁から脱して民主主義政権に移るには、中国による三民主義への理解が必要である。民生主義と民権主義が日本で再確立するなら、日本による中台和解の仲介も夢でない。「今より以後、世界文化の前途にたいして、結局、西方覇道の手先となるのか、それとも東方王道の干城となるのか、それはあなたがた日本国民が慎重にお選びになればよいことであります」（1924年・神戸にて孫文）。

会員寄稿文

「世界平和の基盤としての経済」
～コロナ後の世界経済と平和の構築～

中 川 十 郎

要約：政治、文化、平和の基盤は経済である。平和の基盤たる世界経済がグローバル化した世界に急激に感染拡大したコロナパンデミックにより、世界は戦後最大の経済不況にあえぎつつある。コロナ後の世界経済をいかに立て直し、格差のない社会と世界平和を希求すべきか。格差拡大をもたらしつつある資本主義の再構築も含めて、経済の視点から平和問題を論じる。

1. コロナ禍の現状：

2月12日現在、世界全体の感染者数は米ジョンズホプキンス大のデータによれば1億800万人弱。死者数240万人弱。国別では米国が感染者2740万人弱、死者47万人強と最大だ。次いでインドが感染者1088万人（死者16万人弱）、ブラジル971万人（死者24万人弱）、メキシコ200万人弱（死者17万人強）、英国400万人（死者11万6000人弱）、イタリア268万人（死者9万3000人弱）、フランス350万人弱（死者8万人強）、スペイン300万人強（死者6万4000人強）ドイツ232万人強（死者6万4000人強）とインド、ブラジル、メキシコを除けば欧米が圧倒的に多い。アジアではインドネシア119万人（死者3万2000人強）、フィリピン54万3000人強（死者1万1500人弱）、日本41万2500人強（死者6800人）、中国10万人強（死者4800人強）と日本が中国の4倍以上に感染者が増加しているのは、日本のPCR検査が諸外国に比べて極端に少ないことも含めて問題である。

世界銀行によると変異コロナウイルスの感染も拡大しつつあり、発展途上国では特にサブサハラ地域を中心に、医療設備の不足、医療体制の不備により、コロナ禍の影響で、困窮が一段と加速し、保健のみならず、若者の教育にも甚大な影響を与えてい

ると警告を発している。それはとりもなおさず、発展途上国の平和構築にも影響をもたらし、早急なる対応策が望まれる次第だ。

2. 世界経済の現状と見通し

世界銀行によると、20年の世界のGDPは前年比4.3%減で、21年も4%増にとどまるとの見通しだ。先進国は20年5.4%減。21年3.3%増。米国は20年3.6%減から21年には3.5%増に改善見込みだ。打撃が大きいユーロ圏は20年は7.4%減。21年は3.6%増。日本は20年5.3%減、21年2.5%増と米国、ユーロ圏より回復の勢いが弱いのは問題だ。

コロナ禍をいち早く抑え込んだ中国は2020年のGDP成長率は2%のプラス、21年は7.9%増と独り勝ちの状態だ。中国以外の新興・途上国は20年5%減。21年3.4%増にとどまる見込みである。途上国の政府債務は20年に急上昇し、南米などの債務危機が問題化した80年代後半以降で最も深刻である。

世銀は世界的な格差拡大や、新興国の債務危機の危険性について警鐘を鳴らしている。今回の不況について「過去150年間で、二つの世界大戦と世界大恐慌に次ぐ深刻さだ」との認識を表明。

かかる状況下、昨年11月にG20は最貧国の債務を減免することで合意したが、世銀はこのような国際協調の必要性を強調して

いる。経済発展のエンジンとして期待されているアジア新興国の2021年の経済成長率は最近のIMFの予想では8.3%増と欧米を大きく上回る。マネーの流入も活発になっている。国連主導のSDGsやESG投資も動き出している。先進国のESG投資が加速するとさらなる発展が見込まれるだろう。

3. 世界平和と経済発展

経済は政治、文化、平和の下部機構である。政治、社会、文化、平和構築の基盤は経済である。したがって平和希求のためにはまず下部基盤の経済を強化することが肝要であるというのが筆者の信念である。イタリア・ルネサンスはフローレンスの金融財閥メディチ家の財力が基盤にあった。ローマ帝国は領土内の経済基盤を固め、パクス・ロマーナ（ローマの治下の平和）をもたらした。産業革命で世界の7つの海を制覇した英国はパクス・ブリタニカの下、世界を制覇した。二つの大戦に勝利した米国は戦後世界のGDPの50%近くを抑え、20世紀後半、パックス・アメリカナの下、世界の軍事、経済、政治を抑えた。しかし21世紀に入ると世界の経済発展の軸がアジアに移動しつつある。アジアと中国のパクス・アシアナ、パクス・チノアの世紀が到来しつつある。

アジアの世紀、特にポスト・コロナ禍の世界は、これまでの大量生産、大量消費、大量環境破壊、利益追求一点張りの古い資本主義から利害関係者すべてが恩恵を受け特にアジアから格差の少ない社会、平和な世界の構築に尽力すべきと思われる。世界の平和構築には政治、文化、平和のための基盤の下部機構である世界経済を発展、強化し世界を豊かにすることが必須だというのが筆者の信念である。

地政学的には21世紀に発展するアジアから平和を構築する努力が肝要だ。東アジアでは発展しつつあるASEAN（東南アジア

諸国連合）10カ国からなるAEC（アセアン経済共同体）、さらに2020年11月に締結された画期的なRCEP（東アジア包括的経済連携＝ASEAN10カ国に豪州、ニュージーランド、日本、韓国、中国を加えた15カ国が参加＝インドは脱退）。人口22.6億人（世界の30%）、GDP26兆ドル（世界の30%）。

英国も参加を申請したTPP（環太平洋経済連携＝11カ国、人口5.1億人（世界の6.7%）GDP11.3兆ドル（世界の13%）などで経済基盤を強化し、世界の経済発展とさらに世界の平和構築に努力することが望まれる。

一方、中国、ロシアが主導し、21世紀に発展するユーラシアの広域経済圏SCO（上海協力機構＝中国、ロシア、タジキスタン、キルギス、カザフスタン、ウズベキスタン、インド、パキスタンの8カ国が加盟、他にモンゴル、イランなどがオブザーバー）、ロシア、カザフスタンが主導するEEU（ユーラシア経済連合＝ロシア、カザフスタン、ベラルーシ、キルギス、アルメニア）に加え、中国が注力する21世紀に発展が見込まれる世界の陸地面積の40%を占めるユーラシア大陸を中心とする広域経済圏構想「一帯一路」などが今後のアジア、ユーラシア、アフリカなどで、ポストコロナで大きな影響力を発揮するものと思われる。

日本もグローバルな視野からこれらアジア、ユーラシアの広域経済圏構想に世界平和の観点からも参加を真剣に検討すべきと思われる。

4. 「和をもって貴となす」

世界平和構築の為には、まず現下のコロナ禍のポストコロナを見据えた21世紀の構想を構築すべきである。新型コロナの世界的流行は人々の生活様式を変えるのみならず、世界経済や国際秩序のあり方を一変させた。二大国の米中対立は貿易から先端技術、人権問題、安全保障へと拡大し、米中

が対立を深める中、我が国はこれまで以上に外交手腕の発揮が求められている。2021年以降のポストコロナ時代を見据え変化する世界情勢を見極め、欧州を含むユーラシア地域やインド太平洋の動向を把握し、21世紀アジアの時代に備えて、特に域内の大国、中国とインドとの関係を強化しつつ米国、欧州との関係強化も図る必要がある。

そのためにはコロナ危機を絶好の機会としてとらえ、デジタル・トランスフォーメーション、リモートワークを含めた新たな働き方を希求することである。コロナで世界のグローバル化は減速したが、各国は地球温暖化という21世紀の地球人類の難題への解決に向けて動き出しつつある。米バイデン新政権はパリ協定への復帰を宣言。世界最大の世界の28%を占めるCO₂排出国の中国の習近平・国家主席は20年9月の国連総会で2060年までにCO₂排出量を実質ゼロにすると表明した。日本も2050年CO₂排出量をゼロにすると確約。分断しては解決できない環境問題に各国が取り組み出したことは国際協調、世界平和構築のためにも素晴らしいことである。日本、中国、インドが相協力して、まずアジアからCO₂排出量ゼロに向けて協力すべきであろう。

かつて聖徳太子は1400年前に「和をもって貴となす」と喝破された。格差のない21世紀の新たな万人の幸せを目指し、平和を希求する新資本主義の構築に日本が率先して尽力すべきだ。それが広島、長崎で原発の洗礼を受けた日本の使命でもあろう。

『南洲翁遺訓』で「敬天愛人」、「天から与えられた道を実践せよ」と喝破した西郷隆盛、『論語と算盤』の渋澤栄一の儒教思想、「アジアは一つ」とアジアの結束を唱えた岡倉天心、国際主義を早くから標ぼうした新渡戸稲造、禅の思想を喧伝した鈴木大拙、

平成に著書『人間の経済』などで「富を求めるのは道を開くためである」、「資本主義の暴走を止めよ」と唱えたノーベル経済学賞候補にもなった宇沢弘文・東大名誉教授などの思想を世界平和の基盤として活用すべきである。

ユーラシア大陸のシルクロードから日本文化の源流を受け入れた日本はポストコロナの21世紀の世界経済再構築、世界平和希求に向けて今こそ尽力すべき時である。

主要参考文献：

1. 『米中新冷戦とアフター・コロナ』 近藤大介 講談社現代新書 2021年1月
2. 『人新世の「資本論」』 斎藤幸平 集英社新書 2021年1月
3. 『菅政権と米中危機』 手嶋龍一・佐藤優 中公新書 ラクレ 2020年12月
4. 『地政学』 奥山真司 新星出版社 2020年10月
5. 『シルクロード世界史』 森安孝夫 講談社選書 メチエ 2020年9月
6. 『スーパー大陸～ユーラシアの地政学』 ケントEカルダー 潮出版社 2019年11月
7. 『最新世界情勢地図』 パスカル・ボンファス他 Discover 2019年3月
8. 『人間の経済』 宇沢弘文 新潮新書 2017年4月
9. 『茶の本、日本の目覚め、東洋の理想』 岡倉天心 ちくま学芸文庫 2012年6月
10. 『ユーラシアの地政学』 石郷岡建 岩波書店 2004年1月

会員寄稿文

趣 味 の 話

中 田 龍 彦

趣味は人それぞれ、多種多様である。商社マンとしてニチメンと双日で42年間日本と中国で忙しく働いている頃、なかなか趣味に没頭する時間がなかった。それでも商社マン退職後の現在も続いている小生の唯一の趣味が船釣である。

中国駐在中は北京と大連で釣りを楽しんだ。北京駐在時、北京には既に“北京日本人会釣り同好会”がありよく釣行に参加した。北京は流石に海が近くにないので、池や湖での鯉・ハクレン等の淡水魚釣や養殖場でのマス釣りが主だった。また年に1回同好会でバスを仕立て北京から秦皇島へ遠征、港の岸壁からの投げ釣りでハゼを釣りに行った。大連は遼東半島の突端に位置し、西は渤海湾と東は黄海に挟まれ、起伏に富んだ数多くの漁場があり、中国でも有数の釣りを楽しめる場所である。2005年から2008年まで3年間、双日から日本貿易振興機構（JETRO）へ出向、同機構大連事務所の海外投資アドバイザーとして勤務、その間、大連で船釣を楽しんだ。大連の船釣のシーズンは気候のよい4月から10月までの7ヵ月に限られる。冬場は零下10度以下となり、強風と高波で船釣りどころではなくなる。大連には日本本社から派遣された日

本人駐在員も多く、その中の釣人が何人か集まって船釣を楽しんだ。大連に進出した日系企業が設立した“大連日本商工クラブ”（現：大連日本商工会）があったので、同クラブの同好会として“大連日本釣同好会”を立ち上げ、初代同好会会長に小生が就任した。この同好会は現在も大連で存続しており、冬場のオフシーズンを除き毎月楽しい釣行を行っているという。

日本の一般的な釣船（遊漁船）は全長10－13m位のFRP（繊維強化プラスチック）製船体に400～430馬力のエンジンを積み、巡航速度20ノット（時速37km）、最高速度28ノット（時速52km）が出せる。従い出航から1時間強も走れば遥か沖合の釣りスポットまで簡単に移動できる。日本の釣船とは可也違い、小生大連駐在時の船釣りは木造漁船（下記写真）をチャーターして行う釣りが主だった。大連の木造漁船は焼玉エンジン（ピストンとシリンダーを使うレシプロエンジンの一種類で、焼玉という特徴的な点火機構を持つエンジン）の船が多く、最高速度は10ノット（時速18.5km）が精一杯で自転車よりも遅い速度しか出ない。そのため大連の船釣は陸地の近場の海での釣になる。



大連の漁場の海底は岩だらけ



大連の漁船をチャーターして釣行



クロソイをゲットして喜ぶ小生

大連付近の海で釣れる魚はクロソイかアイナメ（写真下記参照）である。釣餌は生きたドジョウを鼻掛け（釣針を生きた魚の鼻に通して魚を水中で泳がせて釣る釣法）にして釣る。中国の釣りは何匹釣ったかではなく、何kg釣ったかで競う。釣行に出ると1回で数キロは釣れる。釣った魚の料理法は、釣ったその日は刺身、釣った翌日は焼魚またはホイル包み焼き、3日目はバター焼きにして食べるのが常だった。余りに多く釣れた日は、魚を開いて内臓と鰓（エラ）を取り一夜干しを作り、干した後ラップで巻き冷凍保存、それを解凍し焼いてよく食べた、日本の干物程美味しくはないが、当時の大連では日本製の干物は売ってなかったので、結構重宝した。



クロソイ



アイナメ

北京日本人会釣り同好会と合同釣行会
（大連蛇島）後列中央が小生

これまで釣り上げた魚で一番大きな魚は、中国大連市の沖にある圓島（YUANDAO）付近で釣った真鱈で体長94cm、重さ約10kgの大物（写真以下参照）である。



この時、乗船した船は日本から輸入された日本製の中古釣船だが、日本製エンジンがダメになり中国製エンジンに積み替えた船だった。従い巡航速度10ノット（時速18.5km）、最高速度15ノット（時速28km）位しか出なかった。土曜日の昼過ぎに大連海事大学港を出発、約4時間近く走って大連港の東南約39.8海里（約73.7km）の黄海海上の圓島（以下地図の黒丸が“圓島”）近

くの釣りスポットに到着、夕方から翌日の午前まで夜通しの釣りとなった。棚（=魚が釣れる水深）は45~60mで錘は100号（375g）、餌はユムシ（赤色の海産無脊椎動物）またはイカの短冊を使用。徹夜の釣果は真鱈4匹（上記写真が最大の真鱈）と40cmを超える丸々と太った大型のクロソイ2匹と大漁だった。真鱈の引きはそれほど強くないが、魚体が大きいので手巻きリール（手巻きで釣糸を巻き取る道具のこと、釣竿に取り付けて使う）の巻き上げでは可也厳しく、日本から持参した電動リール（モーターの動力で釣糸を巻き上げるリール）が実に役に立った。



大連市は遼東半島が一番南側に位置する、黒丸が圓島（YUANDAO）
 地図出所：上中国全土地図中国まるごと百科事典/下大連地図百度地図

翌朝日曜日の昼前に納竿、また4時間船で走って帰港、そこから車で大連市内に戻った。釣り上げた魚を社宅に持ち帰って、何とか解体、三枚におろしたが、疲れ果てとても自分で料理にする気になれず、事務所の近くの日本料理屋に持ち込んで真鱈鍋にして貰って食べた。翌日の昼、同じ店で事務所の仲間に真鱈のフライを振舞って好評だった。



大連で釣り上げた真鱈



解体して三枚の下すのも重労働

さて日本ではアジ・真鯛・クロダイ等の釣りを三浦半島で楽しんでいる。毎年5月には三浦半島金田湾の定置網付近で、体長50cm前後のクロダイ（下記写真）を狙うことにしている。クロダイは釣宿の船長が特注の1本竿（継ぎ目のない竿）を使い、オキアミのコマセ釣り（コマセとは魚を集めるための撒餌（マキエサ）、コマセを籠に入れ水中に投下して釣る釣法）である。棚は20～50mと深くないので、手巻きの両軸リール（両側で支えたスプール（釣糸を巻いている部品）を直接回転させて釣糸を巻き取るリール）で釣りが出来る。アジは棚

が50～100mと深いので電動リールを使わないと無理である。釣の楽しみは何と言ってもその日に取れた新鮮な魚をその日の内に美味しく食べれることである。釣った魚は基本的に刺身で食べ、頭と中骨は良いだしが出るので潮汁にすることになっている。長年釣魚を料理してきたお陰で、魚の捌きと刺身作りは手慣れたものである。また外道で釣れたサバもしめ鯖にして食べると実に美味である。

以前は房総半島の千倉や金谷に泊りがけで船釣を楽しんでいたが、誠に残念なことに釣行の手配をしてくれていた友人が他界してしまい、ここ数年は出かけていない。また最近は釣人の高齢化で船釣をする人が減ったことと、釣宿の船長の老齢化も進み、廃業する釣宿が増えているのは実に残念なことである。自分が元気な内は三浦半島の船釣を楽しみたいと思っている今日この頃である。



金田湾で釣ったクロダイ



金田湾 釣果のクロダイ体長50cm



金田湾 真鯛



走水の大アジ (42cm)



走水の大アジ (30cm超も)



千倉で釣った真鯛 (50cm) とイサキ (30cm)



横須賀猿島 カサゴトラギスアジ



伊豆半島 川奈 オニカサゴ

会員寄稿文

アメリカは分断をどうなくすのか

松 村 信 男

アメリカの政治は伝統的には共和党と民主党の二大政党制です。両者の主義、主張に極端なほど大きな差はなく、やや保守的かややリベラルか、小さい政府か大きい政府かと言う程度で、大統領が共和、民主いずれの党から出ようともアメリカの外交政策、国内政策が極端に変ることはありませんでした。これは、アメリカが建国の精神と、また世界の自由諸国の盟主としての自覚を、二大政党が共有してきたためであろうと思います。

2016年11月の大統領選挙で共和党のトランプ候補は、過去の政権が積み上げてきた国際協調と国内政策を否定するような発言をし、それが有権者の支持を受け、大統領に当選しました。トランプ大統領の政策は、アメリカ人の多くが期待するものであったかもしれませんが、移民、難民の問題、地球温暖化対策の必要性など、世界の現実から目をそむけ、また第二次大戦後、自由世界が組み立ててきた秩序を破壊しかねない政策もあったように思います。体の患部を除去するときに、からだ全体への影響を無視して、患部にメスを入れるようなものです。

昨年11月の選挙では、トランプ大統領とバイデン候補がアメリカの取るべき方向をめぐり、激しく対立しました。メディアは分断という言葉多用し、多くの方は、それが貧富の差であるとか、人種の問題であるとか、勝手に解釈しました。新しく大統領に就任したバイデン氏は、分断を埋めなければならぬと言います。

この分断という現象は何か、そのファク

ターについて考えてみたいと思います。貧富格差の拡大、エリートと非エリート、人種問題、多国間主義と自国中心主義、環境問題、中東問題、保守とリベラルな宗教上の問題、移民増大の是非、銃規制など、いろいろなファクターがあげられます。私は分断の大きなファクターとして、国民の多くが建国以来誇りとしてきた自分たちに共通する伝統文化（アメリカのアイデンティティ）の希薄化と、貧富の格差拡大の二つに集約できるのではないかと思います。また、これらのファクターは、第二次大戦のあと、アメリカが繁栄のピークに向かう間、同時進行的に底流として形成され、徐々にそのマグマが堆積していったのです。

アイデンティティの希薄化については、21世紀初頭、ハーバード大学の故サミュエル・ハンティントン教授（注1）が「分断されるアメリカ」の中で指摘している理論が説得力をもつと思います。貧富の格差については、いろいろな学者やメディアが論じていますが、昨年邦訳が出版されたエマニュエル・サエズ教授とガブリエル・ズックマン教授（共に加州立バークレー大学）の「つくられた格差」（注2）の中で、アメリカの税制にその原因があると指摘しています。

私は、これら学者の意見やデータerを参考にしながら、アメリカがかかえる分断という問題の所在を、自分なりに整理してみたいと思います。

はじめにアメリカの人種構成と所得分布を見てみます。

ウキペディアにアメリカの国勢調査2000年と2010年の比較があるので、それを下の表にまとめてみました。（人口単位：百万人）

	2000年 人口 (割合)	2010年 人口 (割合)	増減 人口 (割合)
白人	194.6 (69.1%)	196.8 (63.7%)	2.3 (1.2%)
ヒスパニック	35.3 (12.5%)	50.5 (16.3%)	15.2 (43.0%)
[中、非白人]	[18.4 (52.1%)]	[23.8 (47.0%)]	[5.4 (29.3%)]
[中、白人]	[16.9 (47.9%)]	[26.7 (53.0%)]	[9.8 (58.0%)]
[白人総計]	[211.5 (75.1%)]	[223.5 (72.4%)]	[12.1 (5.7%)]
黒人	33.9 (12.0%)	37.7 (12.2%)	3.8 (11.2%)
アジア系	10.1 (3.6%)	14.5 (4.7%)	4.4 (43.6%)
その他	7.5 (2.8%)	9.2 (3.0%)	1.7 (6.3%)
全米人口	281.4 (100%)	308.7 (100%)	27.0 (9.7%)

白人はイギリス系アングロサクソンを主に、ゲルマン、ラテン、スラブ系など。ヒスパニックはメキシコ系を主に、ラテンアメリカ、キューバ系白人など。ここで注目すべきは、20世紀後半から始まっていたヒスパニック系人口の急増です。上の表には出ていませんが、ウキペディアはヒスパニックの人口が1990年から2000年までに倍増し、その平均年齢も27才という若さであるとしています。この表においても、ヒスパニックの人口増加率は、全米人口の増加率の4倍以上です。ヒスパニックの人口増加がなければ、最近の10年間、全米人口の増加は、絶対数、増加率共に半分以下であったことをこの表は示しています。

日本や多くの先進国で少子高齢化が問題になっています。人口増加率の低下が、国力の低下に繋がるのが事実とすれば、ヒスパニックの増加がなければ、アメリカの人口増加は急低下し、国力の低下は避けられないといえます。一方、アメリカの伝統文化に同化しないヒスパニックの増加はアメリカの伝統的なアイデンティティの希薄化に繋がるといえます。ここにアメリカのジレンマがあります。

一方、所得分布を見てみたいと思います。サエズ/ズックマン両教授は共著のなかで、アメリカの20歳以上の成人人口を4つの階級グループに分け、階級ごとの平均所得をあげています。これを要約すると次のようになります。(パーセンテージは、20歳以上

の成人人口構成比率、平均所得は2019年のグロスベース年収)

労働者階級(122百万人、50%)	18,500ドル
中流階級(100百万人、40%)	75,000ドル
上位中流階級(22百万人、9%)	220,000ドル
富裕層(2.4百万人、1%)	1,500,000ドル
成人人口平均(240百万人、100%)	75,000ドル

著者は、成人人口の1%の富裕層の所得が、10年前(1080年)には全国民所得の10%強であったのに対し、2019年には20%に倍増し、下位50%の労働者階級の所得は、同じ期間に全国民所得の20%から12%に下落したことを指摘しています。すなわち、パイの大きさは大きくなっているにしても、その分け前は、この10年間だけをみても、成人人口1%の富裕層の取り分が倍増し、50%の労働者階級の取り分が半分近くに減り、格差がさらに広がったということ、また成人人口の90%を占める中流階級と労働者階級の間にも、ほぼ4倍という、大きい所得格差が生じていることを指摘しています。

次に、これら分断のファクターを大きくした底流を分析するために、少しアメリカの歴史を振り返ってみます。ここでお断りしますが、人種別人口、キリスト教宗派、産業などの分布は歴史の中で変動していません。ここでは文章の流れを簡略化するために、かなり叙述を概略化し、時には誇張や実態に反するというリスクを犯しています。

16世紀の半ば以降、英国国教会の抑圧か

ら逃れ、信仰の自由を求めて、イギリスからアングロサクソン系の白人がアメリカへの入植をはじめ、当時のヨーロッパでは見られない政教分離の新天地を切り開いたのは周知の通りです。1776年建国以降も多く、移民を受け入れましたが、移民のほとんどはヨーロッパ系白人で、これら移民は総じてアメリカの伝統文化に同化しました。

19世紀なかば、ヨーロッパで産業革命が起こり、アメリカにも影響をあたえました。鉄道、石炭、鉄鋼、自動車、化学、電機など近代産業は、交通網が発達したアメリカ中西部を中心に発展し、多くの白人ブルーカラー労働者が中産階級を形成しました。南部では保守的なキリスト教会が浸透し、バイブルベルトと呼ばれるほどになりました。保守的なキリスト教徒は福音派と呼ばれ、今では全米人口の30%を占めると言われますが、この人たちは、聖書を文字通り信じ、学校などで進化論を教えることに異議を唱え、人口中絶、同性結婚に反対します。

南北戦争（1861～65）のあと奴隷制度は廃止され、黒人たちは自由の身となりましたが、人種差別は根強く続きました。ケネディ大統領（1961～63年）が人種差別廃止を強く訴え、後をついだジョンソン大統領のもと、1964年、公民権法が成立しました。多くの黒人が職をもとめて北部の産業諸州に移住しました。一方、アメリカに豊かな生活を求め、メキシコ中心に、ラテン諸国からの移民が増え続けました。彼らはヒスパニックと呼ばれています。

この間、アメリカは国際的にも先進大国として、世界の舞台に登場しました。二十世紀の前半、二つの世界大戦に勝利したアメリカは、世界に抜きんでた軍事、経済力を背景に、敗戦国への経済援助、対ソ冷戦に備えた自由諸国への軍事援助、国際機関への資金拠出など、名実ともに自由・民主主義の盟主となったのです。この頃、アメリカの白人を中心とする中産階級は、得意と誇りの絶頂にありました。

1975年、長期のベトナム戦争の終結で帰還した兵士たちの多くが、精神的に疲弊し、健全な市民に戻れず、麻薬やアルコール中毒がひろがり、ホームレスも増えました。かたや、巨大な消費市場を求め、海外から低価格の製品の輸入が増え、繊維、電機、自動車、鉄鋼など、アメリカの基幹産業を圧迫し始めました。生き残りをかけた企業の中には、労働コストの安い海外諸国に生産基地を設けるところが続出しました。こうして中西部や東海岸諸州の産業の空洞化が進み、ついにはラスト・ベルト（錆び付いた地帯）と呼ばれるようになったのです。変化をもたらしたのは、諸外国との貿易問題だけではなく、増え続ける移民も、アメリカの多くの産業に低コスト労働を提供したのです。こうして、中西部を中心に豊かな中産階級を形成していたブルーカラーの白人労働者の多くが低所得層へと転落し始めました。

分断のマグマはこうした底流のなかで醸成されていきました。前述の通り、初期の移民は白人が多く、彼らが伝統的アメリカ文化に自然に同化していったのに対し、ヒスパニック、アジア系の一部は、伝統的アメリカ文化に同化するよりも、むしろ母国の言語、文化を持ち込み、自分たちのコミュニティを築く傾向が強かったのです。彼らは低所得ではありましたが、政府の福祉政策により、最低限の生活は保証されていました。またアフリカ系アメリカ人も、差別が続くなか、徐々に社会進出を果たしました。これに加え、連邦、州政府などが、Affirmative Action（積極的差別是正策）を推進し、政府系機関の雇用や入学制度などで、社会的に差別と言うハンディを背負っていた人種を積極的に支援する方策を次々と実施していきました。極端な一例が、大学などで人種別に枠をもうけ、合格ラインに達しなくても比率をと満たすために特定人種の受験生を合格させ、合格ラインを達した白人が不合格になるなど、明らかに逆平等がまかり通る制度が一時存在したのです。

アメリカ人は総じて、勤勉であり、国民としての義務に忠実です。勤労を愛し、真面目に納税し、非常時には兵役に就き勇敢に戦います。一方、アメリカ人は伝統的には、中央政府には多くを期待せず、政府から干渉されるのをいやがり、また政府が貧しい人を助けることに反対します。今、この白人を多数とするアメリカ人が自らの自分を顧み、過去の栄光を振り返り、アメリカの現状を見て何を思うのでしょうか。自分たちの職を奪ったのは誰なのか、自分たちが支払う税金は何に使われているのか、アメリカの国際的地位が低下したのはなぜか、アメリカ人の誇りはどこにいったのか、移民、特にアメリカ文化に同化しない移民をこのまま認めて良いのか、今は逆平等ではないかなど、彼らの内面には不公平感が充満しています。

2016年の大統領選挙で、共和党候補のトランプ氏は、アメリカが抱える病根を鋭く察知し、“America first”とか、“Let us make America great again”という言葉でアメリカ人に呼びかけ、フラストレーションを持つアメリカ人たちの共感を呼びました。さらに、人口の30%あると言われる、聖書に忠実で保守的なキリスト教福音派の信者の心も巧みに掴んだのです。トランプ大統領は、昨年11月の選挙においても、自分の仕事は達成途上で、まだ終わっていないと訴えました。2020年11月の選挙でトランプ氏は敗北しましたが、それでも74百万票の支持をえました。私は、トランプ氏の影響力は今後とも共和党に強く残ると思っています。しかし仮にトランプ氏が去ったとしても、アメリカの底流がなくなるわけではありません。

バイデン新大統領は、アメリカ人に分断をなくそうと呼びかけています。分断なくすためには、分断の原因を除去しなければなりません。分断の解消には、中西部一帯に多い白人ブルーカラー労働者の所得レベルを改善し、中産階級のレベル近くまで引き上げることが一つ、他の一つは、アメリ

カ国民が人種構成の変化と異文化の流入を受け入れ、新しい融合国家を目指すよう、転換の舵取りをすることではないかと思えます。

白人人口の比率は2050年までに50%を切ると言われていますが、バイデン大統領は就任早々、10年以内に違法移民に市民権を与えると声明し、非白人比率の増加を抑制する気配もありません。バイデン政権の閣僚の顔ぶれをみて、おそらく皆さんも「ここまでやるか」と思われたのではないのでしょうか。女性、黒人、ユダヤ系、アジア系が顔をならべ、新しい融合国家のプロトタイプかと思うほどです。一方、バイデン政権で、国家安全保障担当の補佐官ジェイク・サリバン氏は、「外交政策は即国内政策、国内政策は即外交政策だ」と、労働者、中流階級にはっきりと的を絞った発言をしています。これが具体的にどのような政策につながるのか分かりませんが、外交をエリートだけに任せず、中産階級からの参画が必要だという意味だと思っています。バイデン政権が発足してまだ1ヶ月あまりしか経っていませんが、分断をなくすための方向付けだけは見えてきたように思っています。

最後に、中流階級や労働者階級の人たちが真面目に納税し、一方トランプ氏のごとき超富豪がほとんど納税しなくて済むような現在の税制はやはりどこかおかしいのです。またグローバル化を果たした巨大なIT産業に対する税制も、今や機能していません。これらの税制を根本的に見直し、国民が納得のできる新しい税制を構築することが、分断を埋める一つの具体策であるように思います。

注1：サミュエル・ハンチントン著「分断されるアメリカ」

(2001年) 鈴木主税訳 (集英社)

注2：エマニュエル・サエズ/ガブリエル・ズックマン共著「つくられた格差」

(2019年) 山田美明訳 (光文社)

会員寄稿文

マニラでの大トラブル、払暁の解決

芳 賀 信 明

私は昭和38年の6月から昭和41年の8月まで約3年間マニラ駐在員を勤めました。それまで、私は鉄鋼の国内販売を担当していて、貿易の方は受渡業務しかやったことがなく、いきなり海外駐在ということで、それなりの苦労はしました。

しかし、3年間の駐在生活での最大のトラブルは、このエス・シー・スチール（仮名）の建設から試運転までの相手側との交渉でした。

金属部門担当としての駐在員生活も3年目に入り、機械担当で同期の溝江君は既に帰国していて、後任の機械担当は深見君と言う一年後輩社員です。東京外語大を出ていて、なかなか気のいい男でした。

あるとき、彼のところに、ある地元銀行のオーナーと言う男から電話があり、亜鉛鉄板工場を経営してみたいから、機械一式を見積もってくれとの話がありました。亜鉛鉄板とは一般にトタン板と呼ばれているものです。日本からメッキする前の原板（black sheet）を輸入して、亜鉛メッキをする、ただそれだけのことですが、それでも当地では立派なスチールカンパニーです。しかし、機械だけを納入しても、それに使う原板と亜鉛地金が手にはいらなければ工場は運営できません。そこで、私と深見君との密接な連携プレーが始まりました。

当時、マニラには既に亜鉛鉄板工場は二つあり、ひとつは三井物産がからみ、もう一つは伊藤忠商事がからんでおりました。両方とも原版のメーカーは川崎製鉄（後のJFEホールディング）であり、川崎製鉄はマニラにもう一つの亜鉛鉄板工場が出来るのは歓迎しない、つまり工場を作っても原

板は供給しないとの態度でした。しかし、わが社の読みは、工場さえ作ってしまえば、どこか日本のメーカーが原版を供給しなければならないのだから、その時になれば、原板はなんとかなるということでした。

そこで、深見君は東京の機械本部と亜鉛鉄板製造工場（といってもメッキ工場）の輸出商談を始めました。銀行のオーナーはドクター・Pと呼ばれる人物で、自分が会長、20代の若い息子が社長を勤めておりました。この息子は弁護士資格を持っているとかで、アターニー・Pと呼ばれておりました。

どうも、フィリピンでは、ある資格を持っていると、家族内でもアターニーとかドクターとか資格名で呼ぶ習慣があるようです。時々ドクターの奥さんとも話をしましたが、自分の息子をアターニー、旦那さんをドクターと呼んでおりました。

機械買い付けの窓口はアターニーのほうで、深見君が毎日のように電話で、アターニー、アターニーと連呼しているの、ついにわが社のマニラオフィスでは深見君にアターニーとのニックネームを贈呈することになりました。

銀行と言っても、日本で言えば信用組合程度の銀行ですが、それでもバンクのオーナーとなれば相手にとって不足はありません。ドクターPのドクターとは歯科医のドクターだと聞きました。元々は質屋の出身だそうですが、案外財布の実権は副社長たる奥さんが持っていたかもしれません。

さて、亜鉛鉄板工場の商談の方は順調に進行して、見積もり、成約、機械の納入、建屋の基礎工事と進んできました。そろそ

ろ材料の原板や亜鉛地金の手配をしなければ、なりません。

深見君から後三ヶ月で工場完成と聞いて、私はアターニーPと原版と亜鉛地金の商談に入りました。試運転用原版はとりあえず500トンと決めました。川崎製鉄は商談開始当時は原板の供給を渋っていましたが、工場完成間近と聞いて態度変更、原板の供給を保証してくれました。まだ早いと抑える私の意見を無視して、アターニーPは試運転後の正式稼動用に更に原版1500トンの注文をしてきました。私は合計2000トンの原板を内地に発注、工場の完成を待ちました。その間、内地では2000トンの原板の生産が着々と進んでおりました。新会社の名前もエス・シー・スチールと決めました。

試運転用の原版500トンが川崎製鉄で完成しました。内地からは早く船積みしたいから、L/C（支払い保証状）を開くよう督促してきました。

ここから、オーナー側は予想外の行動に出ました。あと、数週間で完成予定の工場をドクター・Pが自分で視察に行き、図面と首っ引きで比較した結果、窓の位置が図面と10センチずれているから、工場建屋を全部取り壊し、新しく図面どおりのものを立て直せというものです。周囲が窓の位置など多少違って、生産には全く支障が無いから大丈夫と言っても、聞く耳を持ちません。ついに工場建屋を取り壊し立て直すことになりました。そのほかにも、素人のドクターが事あるごとに、現場に文句をつけて、あれこれやり直させるので工場の完成はドンドン遅れるばかりです。

内地からはL/Cの開設を矢の様に督促してきますが、オーナーサイドは工場の完成が遅れているので、L/Cは開けないと言い出しました。私としても、早く船積みしないと内地側が完成品を抱えてこまるので、連日オーナーを督促しましたが、どうしても応じません。ついに、相手は電話をしても出てこず、手紙を書いても返事を寄越さ

ず、訪問しても会わないということで、全く連絡が取れなくなってしまいました。深見君も側面援助してくれましたが、原板の船積みは暗礁に乗り上げてしまいました。このへんがフィリピンの商売の怖いところです。

エス・シー・スチールのL/Cは開かれないうまま、ドンドン月日は過ぎてゆく。内地からは連日督促され、こちらもある限りの智恵を絞って相手とコンタクトをはかるのだが、どうしても相手は出てこない。私は体調を崩し、夜中になると胃が強烈に痛み出し、ベッドの上に座り込んで我慢するような日々が続きました。

ある時、内地から、余りにも長く埠頭に放置してあるので、既に一部錆が出てきた。早く引き取ってくれないと、使い物にならなくなるとの電報をうけ取りました。どうせ、駄目もとも思っただけでアターニー・Pに電話をいれると、どうした風の吹き回しか、相手が電話にでたのです。そこで私は痛恨のミスを犯しました。「あなたが、はやくL/Cを開かないから、一部錆がでてきますよ。」

これを聞いた相手は「錆びた鉄を引き取れるか。L/Cは絶対に開かない。」と言って電話を切ってしまいました。海外駐在でトラブルに巻き込まれたら、自分で解決するより方法はありません。同僚の駐在員たちは、それぞれ自分の仕事で忙しい。支店長は管理業務だけです。

もう、いかんともしがたい。何か、善後策は無いかな、考えてみたが、いい智恵が浮かばない。

ところが、それから数日後に、なんたる僥倖か、アターニー・Pが結婚することになったので、某月某日の結婚式、ならび披露宴に陪席されたい旨の招待状が届いたのである。結婚式はダウンタウンの最大の教会で、午後5時頃から、披露宴はドクター・

P邸宅で7時頃からとなっていました。招待されたのは私と深見君、ならびに支店長の3名でした。なぜ、このトラブルの最中に招待状を寄越したのかは不明ですが、私にはこれこそ、千載一遇、オーナー一族を説得する最後のチャンスであると思えました。

結婚式の当日、どういうわけか式は教会の外側で、執り行われました。多分、民衆の目にみえるようにとの配慮でしょう。人数は分かりませんが、黒山の観衆の目の前でカトリックの結婚式はつつがなく執り行われました。

一旦、社宅に戻ったあと、暑いさなか紺の背広を着込んだ私は他の二人と共にオーナー邸の披露宴に乗り込みました。前にも一度招待されたことがあります、その時はバイニハン国立舞踊団を中庭で公演させられるほどの大邸宅です。中庭、各部屋すべて来客に開放してあります。招待客は多分数百人でしょう。私はドクターPの姿を捜し求めました。漸く、彼が来客と談笑している現場にたどり着いて、話かけようとすると「イヤー、今日は本当にめでたい。こんないい日はない。」と言いつつ、酔っ払った振りをしてどこかえ行ってしまう。なんどもこんなことを繰り返したが、どうしても駄目です。

深見君は既に機械は納入済みなので、夜の9時頃には帰っていきました。支店長も、同様に「おい、芳賀君、頑張れよ。」と言って帰ってしまいました。私は、10時、11時、12時、1時とチャンスが来るのを待ち構えていたが、夜更かしの好きなフィリピン人のこと、なかなか客数は減りません。それだけ、ドクターの逃げ回るチャンスも多いわけです。私は、今晚徹夜してでも、相手と一対一で話し合うチャンスが来るまで絶対に帰らないと心に決めていました。

朝の2時になると、さすがに長尻の客たちの姿もまばらになってきました。朝の4時になりました。

空が白々と明けてきました。豪華絢爛の披露宴も終わりに近づきました。ドクターP夫妻は最後の客をおくりだして、母屋に引き上げようとしていた。私は呼び止めました。「原板のL/Cについて話がしたい。」

夫妻は中庭の東屋に私を招じ入れました。当事者3人だけです。

「ミスター・ハガ、私は錆びた鉄はいらないのだ。新品をロールし直して欲しい。」と勝手なことを言います。

「いや、実は錆びてない。余り、長く置いておくと錆びる恐れがあると、アターニーに申し上げたつもりだったが、誤解されてしまった。」と私。

「本当に錆びてないんだな。」

「錆びておりません。」

「それでは、ためしに100トン分だけ、L/Cを開こう。到着して、錆びてないことが証明されたら、残り400トンのL/Cを開く。これで、どうだ。」

「結構です。」

私は、一旦社宅へ戻って、シャワーを浴びてすぐに会社へ行って、この経緯を東京に打電しました。

東京は了解してくれました。当時、鉄鋼輸出部の鋼板課長は間野さんでした。彼は直ぐに、部下を連れて、川崎製鉄千葉工場の埠頭へ行って、500トンの鋼板の梱包をすべて開けて、状態の良いものを100トン選んで船積みにも備えました。オーナーからL/Cが開かれ、100トンは船積みされました。

私と深見君は工場に控えている日本人技術屋さんに経緯を話し、とにかく貨物が到着次第、ただちに全部メッキしてくれるように頼みました。多少の錆びは、メッキしてしまえば、分からなくなってしまいます。

オーナーサイドはメッキ結果に満足しました。残り400トンも無事L/Cが開かれました。これも、技術屋さんたちがさっさとメッキしてくれたお陰です。これで、試運転は終わり、次の月から毎月1500トンの本



この石原裕ちゃんの手紙は、『サファリーラリーで日産ブルーバードが優勝』という実話が映画化された『栄光への5000キロ』の主演裕ちゃんが、ケニア・ナイロビでの撮影中に日本宛に郵送されたものです。

それでは、なぜ、**8ニチメン**の便せんが使用されたの？と疑問に持たれると思いますが、当時はニチメン・東京自動車部が日産車のアフリカ向け輸出を担当しており、日産さんより『撮影部隊の一行が現地滞在中は、種々面倒を見て欲しい』と要請され、ナイロビ店駐在員の田中正光さん（故人）が担当、その田中さんのニチメン便せんで裕ちゃんが手紙を書かれたものです。この撮影日数は結構長く、その間毎晩、裕ちゃん、そして浅丘ルリ子さん他撮影部隊メンバーが田中駐在員の社宅で食事会をされていた由。

そして、この撮影に使用されたブルーバードには、ニチメンの社名がペイントされ今も保存されています。

ところで、田中駐在員の他に、裕ちゃんを毎晩アテンドしたのは、偶然にも現地に長期出張されていたニチメン・大阪自動車部の徳永俊彦さん（昭和37年入社）でした。

当然、徳永さんは、ダイハツ車のアフリカ向け案件の出張でしたが、現地ではダイハツ車の競合車である日産車のためにも働くと云う、『日本の商社マンの鏡』です。更に、徳永さんに関しては、このアフリカ出張中に、

他にも面白い逸話がありますので、これは別頁にて皆さんにご紹介させていただきます。

【ダイハツ車が1964年東京オリンピック 聖火コース1万8千キロ走破】

ダイハツ工業さんとニチメンは、歴史的、地理的に大変深い関係にありました。同社は、1896年（明治29年）ニチメン本社と同じ大阪・中之島に設立された『大阪工業学校（現在の、大阪大学・工学部）』の内燃機関研究陣によって1907年（明治40年）設立されました。設立当初の会社名は『発動機製造株式会社』、その後大阪での発動機の製造ゆえ大発＝ダイハツというブランド名が使用され、1951年（昭和26年）ダイハツ工業に社名変更されました。そして、ニチメンとダイハツさんは、同じ『みどり会』（旧三和銀行グループ）メンバーでもあり、自動車製造に関わる資材・機械の調達から、自動車本体・部品の販売まで深い協力関係にあり、特に海外案件に就いては、各国で合弁企業設立等資本関係もありました。その象徴的な一例を紹介すると、ダイハツ本社にある記念館『ヒューモビリティワールド』に展示されているコンパーノ・ベルリーナ車です。これは、『1964年東京オリンピック・聖火コース走破隊』という、毎日新聞が企画し外務省が後援した壮大なプロジェクトで、日本のコンパクトカーの最高の技術とヨーロッパデザインを融合し



たオシャレなベルリーナが、ギリシャ・オリンピア丘より各国経由インド・カルカタまでの聖火コース（かなりの悪路を含む1万8千キロ）を無事に走破したもので、各国にてニチメン駐在員が協力しホワイトボディーの両側ドアには日の丸国旗、ダイハツマーク、OLYMPIA⇒TOKYO、そして左側には“祝壮途！ニチメン・カルカタ支店・長谷川洋”（昭和33年入社、機械）の寄せ書きがあります。

そこで、前述の大阪自動車部・徳永俊彦さんのダイハツさんとのエピソード2件を下記ご紹介します。

①アフリカ・ウガンダ向け案件のエピソード

*前述にてご紹介の通り、1969年頃、徳永さんはダイハツ案件でアフリカに頻繁に出張されていました。

丁度、裕ちゃんを毎晩アテンドされていた時は、ウガンダでのダイハツ債権が焦げ付き、その資金回収が主な出張目的でした。

ウガンダのダイハツ車販売店オーナーと何度も厳しいネゴをされていた徳永さんは『この社長は、個人的には資産があり、どこかにお金を隠している筈・・・』と、ピンと気付き、先方との債権取立て交渉中『ダイハツ車の支払いをしてくれれば、スバル車を売ってあげてもよいけど・・・』と奇策のアイデアを提案。実は、この社長は、以前からスバル車にも大変興味を示しており、この提案に目を輝かせて乗って来たので、

徳永さんは富士重工とネゴをしてスバル車オーダーの了解をとり、その結果ダイハツ車未払い代金を決済させる事に成功、日本から入金完了の通知が入り、徳永さんは帰国の途に。

*帰国の日に、大阪・伊丹空港には、ダイハツさんの担当重役、部長さん他5名、そしてニチメンからは当時の上司であった田中務さん（故人）が出迎えに来られ、『徳さん、大変な債権取立てご苦労さん!』と称賛の言葉を徳永さんは期待されたが、ダイハツさん皆さんは、通関後空港ロビーに現れた徳永さんを大変コワイ顔つきで睨んで、開口一番『徳さん、何しに行ってきたん!!』と、大声で怒られた由。

実は、日本側の担当者であった富田源蔵さん（故人）が、富士重工に送るべきスバル車の注文書を、何と間違えてダイハツさん宛に送付してしまい、ダイハツ案件の為に出張された徳永さんが、ダイハツ車の正規販売店から競合車であるスバルの注文を取っていた事が、ダイハツ本社の皆さんにバレてしまった。

②メーカー重役さん、中東向け出張の『かばん持ち』・・・エピソード

*ダイハツさんに、藤井肇さんと云う重役さんがおられ（故人、ご退任時は副社長）、この藤井さんは前述ダイハツ創設メンバー（大阪大学の研究者グループ）の御子息で、ご本人も阪大を卒業後にダイハツさんに入社され（阪大では、工学部&経済学部2学

まず第一に大きな損害の一因に、地球の温暖化があります。グリーンランドはじめ北極、南極に近い所の多くの氷山が解ける事により、この21世紀中に海面が最低でも26センチ、最高で98センチも上昇すると予測されています。20世紀は石炭、石油の化石燃料の時代でしたが、21世紀は各国がCO₂を排出しない脱炭素化を目指す地球にする事と言われています。太陽光、風力、地熱、潮力、中小水力発電などの非化石エネルギーの利用を目指し、特に本命は水素を使ったエネルギーの利用と言う事です。

原子力のような人類にとって、有害な電力は、すぐに撤退する事が必要と言われています。

欧米では既に原発等は撤退の動きをしていますが、世界で唯一の原子爆弾による被害国であり、又3.11で福島での水素爆発による原発事故は、有名なソ連のチェルノブイリと同様、世界でも福島は有名な原発事故の場所です。

その戦争による原爆と原発の二つもの大きな被害を被った日本が、2017年に国連で採択された「核兵器禁止条約」への批准という世界的な運動へ先頭に立って参加しているべき日本が、未だに未加盟で参加しておらず、世界からも不思議がられています。

その理由は良く分かりませんが、一説によると、アメリカの核の傘の下に入っている安保条約で勝手に動けないというのが、原因とも言われています。

世界は、この原発事故をきっかけに脱原発にエネルギー政策の舵をきりました。ドイツやアメリカさえも脱原発に動いていま



すが、当事者である日本は、逆にベトナムへの原発輸出に努めたり、原発の再稼働に動いたりし、日本は国連の「核兵器禁止条約」に一貫して反対して来ました。

狭い日本は、地球の地下資源が乏しい為に、石油をはじめ沢山のエネルギー資源を輸入していますが、日本は四方を海に囲まれ水は豊富です。

この水を水素と酸素に分解し、水素を熱エネルギーに使用すれば、全く環境に問題なく、温暖化を防げ、合わせてCO₂を沢山吸収する森林と海を守り育成、保護する事によって、これからの明るい未来を実現出来ると思います。こうした正しい方向性を一人ひとりが肝に銘じて、行動すべきだろうと思います。

そう言う私は、マイカーのワゴン車が、既に8万キロも走行した為に、今年2月に新しい車を買ってしまいました！地球全体では、もう各国がCO₂の出ない電気自動車に移行する動きを開始しています。

これからはCO₂の増加は温暖化と地球の大気を汚す事、海水面の上昇をさせる事などを銘記すべきだと思います。

大きな災害が起こってから慌てるのではなく、我々の毎日の行動が、明るい地球の為に正しい方向を向いているのかを、冷静に客観的に考え、これから生きる人類の為に、微力ながら正しい道を選択し生きるべき重要な時代だと思いますが、皆さんは、どの様に考えておられますでしょうか？



会員寄稿文

北京大会の日記から

日 野 起 男

関西空港を発ってより早や7日目、世界エスペラント大会の雰囲気にもようやく慣れてきた。それに今日は、高槻組の大浦さん、中津さんと、午前午後ともほぼ同じ行動がとれるので、初心者私には心強い。



大浦、日野、中津

午前の前半は、会話の教室をのぞいた。講師は、オーストラリアの方とかで、奥さんが初級、旦那さんが中級を担当され、ビデオ等も使って実に愉快的な教室を展開されていた。

後半は中国の古代哲学の講演教室に席を占めた。講師の一人は歴史家で哲学者、もう一人は著名なエスペラント語学者で、大翻訳家だ。このたび、水滸伝を翻訳された方。時間がやや余って、司会者が、何かご質問をどうぞということで、中津さんが立



外国からの参加者に話しかけた

たれた。その質問にハッスルされた形で、講師は中国古代哲学の根源は、陰・陽の考え方にあること、それが近代科学の先端にまで通じることへ敷衍され、人類の文明はこの中国の4000年の歴史に負うところ大であると結ばれた。

午後は半日遠足。(左写真、この半日遠足でやっと一緒になれた高槻組の3人) 遠足のバスは、ラマ教のお廟と孔子廟が隣接する、北京市の中央地区へ向かう。

私達のホテルや大会場は、その中央からすれば、2つも3つも外郭の環状発展地区に存在し、来る2008年のオリンピック施設は更にもう一つ外側の第5環状ともいべき広大な大郊外に建設途上だ。

豪華なラマ廟に迎えられた。見事な門構えだ。後日、平凡社の世界大百科事典に全く同じ屋根の挿画を発見し驚いた。清時代の廟で、北京城内にある、雍和宮 法輪殿。

ラマ教は、チベットを中心に発達した仏教の一派だという。

ラマとは、上人とか師 (guru) とか、善知識とかの意。ダライ・ラマのラマは固有名詞にあらずとか。仏、法、僧の三宝の上にラマを加えて四宝とし、直接の。身近な



導師こそがありがたいとする仏教の一派。

奈良の大仏殿のような仏殿が中庭の中央を奥へ奥へと5棟も6棟も連なって建てられている。その一番奥が大仏殿だ。首を直角に仰いではじめて拝めるといふ大仏。それほど大きく、距離をそれほど近くしておわします大仏であった。

ラマ教の 大仏殿まで 蟬の庭

御香煙を両手で必死に身体にいただいている善男善女、私たち外人、地方からの観光客、子どもを遊ばせているご近所の方々らしき人たち。その彼方から集合の声がかかった。もちろんエスペラントで。こんどは、孔子廟だという。ここで人数を確認する。何せ人々の数で、それにエスペランティストも人間、じつとはしていないものだから数があわない。何度やっても駄目。多かたり少なかつたり。20分やっても数があわない。そのとき、少し高い所に立っていた中津さんが、手を挙げて“Esperantistoj” 大声で呼びかけた。

大浦さんが私に説明してくれた。

「輪を作って下さい。10人の輪を」またたく間に輪が4つできた。1人だけが宙ぶらりんだ。椅子取りゲームで座れなかった1人のようだ。

見事、あつという間に41人が確認され、緑星旗のもと、私たちは孔子廟へ向かった。

ラマ教の大仏を拝観した私たち41人は、緑星旗を先頭に孔子廟に向かった。

奇岩、奇石、古木の庭園を少し歩くと、孔子廟の石燈であった。音楽が歓迎してくれる。色の鮮やかな衣装の巫女が5人、馬頭琴、二胡といった管弦で何曲も演奏してくれる。ここは孔子の祭壇というより、彼とその弟子の記念ホールと言った観。ホールの左側の壁や陳列ケースは、弟子たちの肖像画や名簿リストで所狭し。孔子十哲の筆頭は顔回。夭折した顔回到“嗚呼天は余

を滅ぼした”と孔子は号泣したという。キリスト生誕、その500年前の号泣である。

ホールの右のスペースはカウンターやガラスケースの土産品売り場。あの巫女たちも、はや売り子に早変わり。絵葉書や截絵が売れ筋だ。



雍和宮にて

孔子廟 出ればもとの 蟬時雨

帰りのバスで足立さんとおっしゃる東京のご婦人とご一緒した。私が高槻と知り、“竹内先生のお具合は”と、細々ときかれた。そして、第89回国際世界語大会の太文字が緑のインキで印刷された、今大会記念のショルダーバッグの中からオレンジ色の1冊の本を取り出された。「エスペラント会話教室」のあのオレンジブックだ。本の表紙を返しながらか、“講習の終了した日にいただいたサインですよ”と誇らしげに指し示されるのは、JUNIO, 2000 TAKEUTI, Yの署名。

ラマ廟と孔子廟の半日遠足から帰着した私たち高槻組は、茨木の山崎さんと誘い合わせ、改めて大通りへと向かった。赤い旗の壮観を撮りたい。往路復路で6車線か8車線か、車がかなり非整然とぶつとばしているの、定かではないが、その高速車線の両側に、5メートルおきに、何キロメートルにもわたって林立する赤い幟旗、それを撮影したいのだ。

「世界語大会歓迎」と赤い幟旗に染め抜かれた共通の標語。その下に寄贈者の名があるが、文化省、教育省、外務省、北京外国語大学と多岐。勿論、新しい中国文字であるから、あれこれと判読するにとどまるが。

寝る前、テレビのスイッチを入れ、リモコンで40か50くらいありそうなチャンネルをポンポン押していったら、中日一阪神12回裏の場面のNHKが出た。次の瞬間、矢野が一発。7 - 8 x。



高槻エスペラント会 会報

2004年9月 (La Zelkovo188号)・10月 (189号) に寄稿

⇐第89回世界エスペラント大会
北京会場風景



第89回世界エスペラント大会参加報告会
2004年8月24日(火)の特別例会には、会員17人が出席。
(前列中央が日野)



会員寄稿文

山頂から見える上高地

奥村 睦夫

2013年9月、中ノ湯温泉旅館泊 ⇔ 焼岳北峰標高差：約950m 登り約3時間半。

2019年4月、西穂山荘泊 ⇒ 雪中（残雪約2m）歩行トレーニング中、冠雪の焼岳を遠望。



焼岳旧火口=正賀池



焼岳北峰山頂：2393m



西穂山荘

左上：西穂高岳、中央部：岳沢 右上：前穂高岳



上高地帝国ホテル

焼岳北峰山頂から梓川、大正池、上高地、河童橋、
上高地帝国ホテル（赤屋根）を望む



- * このアングルからの眺望は登頂者のみが見られる特権！
- * 現在所属の登山クラブに入会（2013年4月）後、9回目の山行。
同年6月の丹沢山系での足馴らし訓練などを経て、会仲間16名と共に登頂、天辺からの絶景を見るに山行の醍醐味を味わう。

会員寄稿文

山頂からの絶景：小豆島寒霞溪

奥村 睦夫

2019年11月、4泊5日で山仲間12名を引率し、元高松市観光大使の筆者がうどん県（香川県）の山々を案内した。屋島縦走、小豆島寒霞溪、金毘羅宮・象頭山、弘法大師（空海）生誕の善通寺、丸亀城、栗林公園、玉藻城（海城で堀の水は海水）、高松ライオン通り（繁華街）など。



登山口から一時間余。四望頂～鷹取展望台：625mに向かう散策路よりの内海湾・草壁港・二十四の瞳映画村を望む。瀬戸の海（多島海とも言う）のはるか向こうに屋島、高松を遠望



紅葉真っ盛りの寒霞溪ど真ん中をロープウェイで下山。高松に戻り、ホテル川六へ、反省会は全員参加で四国支店駐在時の馴染みの店で「骨付鳥（ほねつきどり）」+とれとれの近海小魚などをいただき、ささやかなれど地元経済に貢献してきました。

筆者は昔も今も「ぶっかけうどん」で、本場さぬきうどんもたっぷり味わいました。

会員寄稿文

自由主義と民主主義

山 邑 陽 一

自由主義と民主主義は違う。自由主義では各人が無限の自由をもつが、民主主義では各人が1個の自由をもつ。自由主義下では、民主主義の重要な要素である平等や博愛が無視されることが多く、とくに新自由主義下では、資本の横暴による人権侵害が増えたり、経済的な格差が増えたりする。また権利を強調するあまりに、憲法が定める勤労・教育・納税などの義務や公共の福祉（憲法22条・民法1条）を軽視する国民が増える。自由主義は民主主義の反意語でもある。自由の女神像を誇る米国での人種差別や所得格差の激しい現状を見ると、米国は自由主義国・自由主義陣営の一国ではあるが、民主主義国としては一流ではない。この点は現在の日本も同様である。

今西錦司の「棲み分けの進化論」を人類社会に適応して考えると、個人が属する部分社会、とりわけ「国家」の統治形態の環境適応性・持続可能性の有無が、個人の生存（環境適応と生命維持）に大きな影響を与える。中国がソ連邦以来成功しない共産党独裁を脱して民主主義政権に移るには、中国による孫文の三民主義（民族主義・民生主義・民権主義）への理解が必要である。民族主義は当時、列強の侵略から中国を守るために漢民族の団結を訴えたものだが、多くの他民族を国内に抱える形となった現在の中国では、国内に住む他民族の民生と民権とを尊重する、進化した三民主義を実行しないと、現在の米国と同じような状態に陥ってしまうであろう。

コーヒーブレイク 新しい散歩道

コロナ禍さなかの四月、つれづれに日記でも書くつもりで、四月始まりの日記帳を買った。先勝・先負・大安・仏滅・友引・赤口といった字がすぐ目に入ったので、先勝は朝に運動して午後休む・先負はその反対・大安は一日を楽しく・仏滅は一日を静かに・友引は一日を友人家族と過ごす・赤口は赤い口いっぱいにご馳走を頂くと勝手に決め、その日、先負の午後にさっそくそれを実行した。

JR・山陽電車垂水駅の真北にある郵便局から右手、東側の公園沿いの坂道を登ると、禅寺の前に出る。そこから左手・西へ道を採れば再び上り坂になり、フォレストという介護付き老人ホームの前に出る。太陽の広場という標識があり、一帯は四月初めに桜が満開となる。そこをさらに北に登って、突き当りの階段を避けて道を左手に選び、山裾の公園下を迂回して西へ行くと、緩やかな上り坂になり大阪湾・淡路島・明石海峡が見渡せる。片道10分・往復20分の登り降り、運動効率が良い。コロナ下で見つけた新しい散歩道である。コロナ下で密地への外出を自粛した間、私は毎日午後の散歩にここを歩いた。毎日が先負の三か月であった。

「俳句の会」いろは句会

佐藤 英二

恒例の「いろは句会」句集を今回もお届けします。当句会は本年3月に第376回を終了し、平成から令和へと時代が変わっても息長く継続しています。

この1年は新型コロナウイルスの影響で、メンバーが一度も顔を合わすことが出来ずメール交信という形式での句会でしたが、月に一度会員同士で切磋琢磨しております。

俳句に少しでも興味のある方、始めてみたいと思っている方、ぜひ新しく仲間に加わって頂ければ幸甚です。老若男女問わず大歓迎致します。

昨年12月発行号には6句を投稿しましたが、今回は従来通り各人3句をご披露致します。
(氏名は50音順)

アクリル板介しマスクの間診医
駅伝に連れ走る犬息白し
ラデツキー行進曲や春近し
宇治田薫風

立春の潮来大橋日の光
時雨るるや村のはづれの地藏尊
雨上がり少し色づく実南天
久保田悦子

娘（こ）は巢立ち主役不在の雛祭り
コロナ禍も時は移ろふ秋来たる
落葉踏む夕暮れの道影二つ
佐藤 英二

路地裏の薄氷踏みし老いの杖
緩やかに砂浜滑る春の波
春雷や大雨風を引き連れて
下川 泰子

叱られて泣く子を撫づる春の風
廃校と決まりし庭にカンナの緋
微笑みの崖観音や冬ぬくし
福島 有恒

赤べこをつついて吾子の初笑ひ
うすらひをつついて指のやはらかき
画布の上をなぞるばかりや春愁
藤野 徳子

初笑ひ増えたる父の笑ひじわ
新聞で包みし祖母の草の餅
訪ね来る人も途絶えて寒九かな
堀部 暁

車椅子の車輪きらりと寒明ける
閉店の貼り紙揺らし春疾風
淡き日を集めしたたかつはの花
山田珠真子

園山君を亡くして、

高 木 恒 久

園山君が先に亡くなってしまった。10年ほど前に心臓の手術をして以来、ポンプみたいなものが胸に埋められてる。心臓がいつ爆発するか分からないと言いつつ、長尺のスチールシャフトで本当に300ヤード飛ばすのを見て、こちらはあっけにとられる。激しくテニスもやっていた。強靱な意志の持ち主で、仕事をとことんよくやり、それは晩年北陸大学で教鞭を取ったり、製鉄会社が運営するアイアン・クラブでの講演会で「世界情勢」の講義をしたり忙しい老後であった。享年81才であった。

そうとは知らず、亡くなる直前、私は彼に電話して「おーい、知ってる？今、必要があって多摩川の地図を見てるんだが、「等々力」という同じ地名が川の両側にあるんだ。

それはね、昔から多摩川は水路が安定せず、曲がりくねって氾濫を繰り返していたんだよ。そこで1615年に工事して川を真直ぐにして堤防を高くした結果、水流は安定したが、等々力村は新しい流れによって真二つに割られたんだそうだ。知ってる？」君の住んでる田園調布の足元の話だよ。今考えると、この時点で彼の心臓は動きに問題があったのか、いつもの彼の好奇心がポンポンと跳ね返ってこなかった。それから数日後、奥さんからの電話で園山君が亡くなったことを知らされた。

話を昔に戻そう。野城恒男、小川宇士雄、園山春一、中條幹雄、高木恒久らが鉱石課の若手だった。ニュージーランドの砂鉄、ソ連はクリボイログの鉄鉱石と鉄マンガン鉱石、モーリタニアの鉄鉱石、以上がニチメン鉄鋼原料部鉱石課の飯のタネだった。

さらにギニア開発にも手を伸ばしたが、鉄鋼の需給見通しの変化からギニアは見合わせた。言うまでもなく、モーリタニアもギニアもフランス語で園山君の世界だった。

1979年、石油ガス部に席を移していた私は、イランに出張原油を契約した後、パリ経由帰国する途上、フランスの国营石油会社CFPとエルフの2社を尋ね情報収集した。そこで園山君にすっかりお世話になった。エルフアキテーヌ石油会社のルシエンヌ・シュミット部長さんと昼食取りながらの意見交換、情報収集だ。園山君が次の用事があるからと、我々2人を残して先に帰って行った。シュミットさんは、「園山さんのお母さんですか、お父さんですか、フランス人は？」と訊くので、私はご両親とも日本人だと思いますよ、と答えると、彼女は自信をもって彼はフランス人ですと断言するように言った。

彼女曰く、何人も日本人を含む外国人とあっているが、皆さんそれなりに上手にフランス語を話すのですが、園山さんは本当のフランス人の言葉で話します。だから彼のことをフランス人だと思い込んでいましたという。私はそれを聴いて、それは凄い財産だと思った。

園山君がロンドン駐在しているとき、私は既にニチメンを卒業し、英国系の会社に勤めていたが、本部のあるロンドンへの出張があった。私は園山さんに前もって連絡し、彼に奥さん入れて3人で夕食を取ろうと申し込んでおいた。約束の晩、料理店に着くと丁度奥さんの宏子さんを連れた園山君が現れた。シャフツベリー通りからちょっと左に入った処にある飾り気のない

レストラン。「園山らしいな、シェフがきつとフランス人だろう」と想像した。宏子さんは綺麗に髪をセットしていて美しかった。テーブルについてエビアンのみながら、メニューに目を通した。私の場合簡単で、頼むものは何時も決まってる。前菜は「朝鮮アザミ」、主菜は「子羊の胸肉」だ。園山君が笑う。たまには他の物を注文したら如何?という顔をして。

食事が始まるとウエイターがやって来て、向こうにおられる旦那がマダムにこれを差し上げてくれとのご注文がありまして……。先ほどから一人で食事している40才位と思しき、やや長髪の紳士から宏子夫人へのシェリー酒のプレゼントだ。彼女はそれを受け取り、その男の方を見て、グラスを目の高さまで揚げて謝意を表し、少し口に含んでから、クッと呑んでニコリとされた。すると園山君が右手を挙げて、紳士に向かってほほ笑んだ。私は園山夫妻の如才ない挨拶を見て、うむむむ、やるねえと唸ってしまった。その晩2人が何を食したか、ワインは何を3人で呑んだかも全く覚えていないが、兎に角楽しい夕食であった。後で園山君に聞いたら、男はテレビにも時々出る役者さんだったらしい。因みに園山夫妻が住んでいた邸宅は、ハイドパークに向き合ったランカスターゲートの一角で、1階のサロンにはスタインウエーのグランドピアノが、どうぞ弾いて下さいと言わんばかりに置いてあった。兎に角豪華な、一等地にある立派なフラットだった。

東京での素晴らしい思い出がある。オーイ園山く〜ん。今晚8時に銀座にご一緒頂けない?ラフィットご馳走するよ。いや、割り勘だな。沢井さんのバーに前から、ラフィット・ロトシルト1970年が一本飾ってあるの知ってるだろ。何年も置いてあるからタバコのヤニでラベルが茶色くなってる奴だ。俺買うよ、と沢井さんに言ったら、思い切って1万円で良いという。いやそ

りゃあ高いなあ、もう広告塔として償却済みだよな。じゃあ、友達一人呼んでくるから、沢井さんも一緒に割り勘に入っよ。いいよ、と沢井さん。一人3000円で良いと仰る。園山君は私の話を聞いて、OKジョインするということで、8時にバーと一緒に着いた。沢井さんは生ハム削って待っていてくれた。3人でテーブル囲んで、ポンと長いコルクが抜けた。この音に私らの安堵感が膨れ上がった。沢井さんはコルクの匂いを嗅いでいて、納得したような表情をした。差し出されたコルクを私らも嗅いでみた。瓶を横にして置いておかないとコルクが乾いて、スカスカになってしまうのだが、これなら大丈夫だ。

沢井さん、とにかく飲もうと言って、グラスに注いで貰う。ぐるぐる回して匂いを立ち上げて、おっ素晴らしい。董色が良いね、勝手なことを言いながら口に含んだ。素晴らしいじゃないですか、沢井さん。彼も目じりを下げて喜んでいる。園山君も、なんと好いブケーだ。完璧じゃないですか、といった。何年間か知らないが、店の広告塔を務めた挙句、くたびれ果てた筈のワインが「天下のラフィット様だ。馬鹿にするでない」と云ってるようだった。最後の色気かどうか知らぬが、何とも言えぬ高雅な薫り、忘れようにも忘れられない深みのある味わいは、天下一品であった。

園山ご夫妻が夏休みを使ってモスクワに遊びに来てくれた。ソ連が崩壊した直後だったが、ロシアの食事を褒めてくれた。園山君が教えてくれたのだが、メニューというものはそもそもロシアが考え出したものだそうだ。嘗てはフランスでも西洋のどこでも、料理は全部がテーブル一面にならぶ。それを皆で冷めないうちに食べたという。ところがロシアの貴族は、厨房から料理を、最初は前菜、続いてまた前菜などを運ばせ、昼食ならスープ。(夕食ではスープは食べない)それから魚だ、肉だという具

合に順に運んでくるから、いつも温かいものを食べられる。あるフランスの料理人がロシアに行き、ロシアで学んだ通りをフランスに帰ってやったら、それが評判になってフランス中どころか、世界中にメニューが広がって行ったんだそうだ。

彼はニチメンを定年退職すると、北陸大学の教授によばれ、広く欧州事情を教えていた。

あるとき彼に頼まれ、私も一度ロシア及び旧ソ連邦事情の講義をしたことがある。感心したのは大きなレクチャーホールが園山先生の講義がある時間は生徒で一杯になる由で、その日も満杯で立ったまま、壁に寄りかかって聴いてる生徒が何人も居た。学生たちは多くを学べる講座には殺到するのは言ってみれば当たり前なのである。園山教授の人気から私も多くを学んだ次第である。

彼は暁星高校時代、市川左團次{当代}と机を並べていたが、ご兩人とも人を引き付けて離さない素晴らしい能力を持っている。

一昨年の春、最後の「欧州会」が京都であり、私は定宿をブックして参加するつもりが園山さんから一緒に行こうと誘われ、旅は道づれと相成った。これが最後の集まりと云う事もあってか、会場には、田淵さん、松尾さん(故人)、吉本さん、清水さん、泉さんほか大勢の懐かしい顔ぶれが集まった。そこで園山君から紹介されたのが、藤田康弘さんで、彼は第2の人生を絵画に打ち込み、既に「三軌会」の会員(なかなか成れるものではない)として活躍され、昨年も六本木の近代美術館での三軌会展に大きなラヴァージュ画を出品、専門家から高い評価を得ている人だ。そういう話に私の興味は大いに掻き立てられた。

園山君のお蔭で、私は藤田さんと知り合いになれた。気さくな方で、結局二晩続けてお世話になり格別な京都を楽しんだ。その一つ、祇園での美しい宴の晩は、園山さんには忘れ難い思い出となったであろうし、お相伴の私にとっても忘れられないものであった。

このページをお借りして、藤田さんにあらためて御礼もうし上げます。



祇園にて、高木

藤田

園山

園山春一君の死を悼む

竹 内 可 能



彼の突然の訃報に接したとき私はわが目と耳を疑った。彼がいろいろな病を経験してきたことや、自身の心臓にはペースメーカーを埋め

込んでいたことなどは衆知の事ではあった。しかしその彼がつい3ヶ月ほど前のことだ。さるゴルフ大会の案内に対して体調がすぐれないという理由から、一旦は欠席するという自身の通知をくつがえして、調子が回復したのでやはり参加するとメールが入ったとき、私は即座に「君はどこまで不死鳥なのか」とメールを返したものだ。その彼が不帰の人となってしまうとは。

いまにして思えば彼と私の間には4つほどの接点があった。

そのいずれも会社に在籍中ではなく、お互いリタイアしたのちのことであった。そのひとつが本会誌に関連の社友会の世話人会であり、お互いこのメンバーとして彼との付き合いが始まったように思う。

そのころ私は彼が金沢のさる大学で教鞭をとっていたことを知り、私は気軽に彼にある相談をもちかけた。金沢市の観光を楽しんでみたいが、だれか適当な人を紹介してもらえないかと。驚いたことに彼は即座に「まいどさん」なる観光案内のヴォランティア組織を紹介してくれた。聞けば彼の奥方がこの組織の運営に深くかかわって来たというではないか。というわけで、「まいどさん」のヴォランティア氏には二度にわたって大変お世話になった。

実はわが夫婦はこれまで何回となく石川

県の中島町に足を運んだのは、仲代達矢ひきいる劇団「無名塾」による公演を観劇する楽しみがあったからであった。その都度宿泊は金沢の街でお世話になっていたという次第である。

三つ目に「自由が丘会」があった。この会は文字通り園山君の主宰になるもので、当初は元専務の河西良治さんにも自由が丘の住人として参加いただいた。会員は主に東京外大出身者（餘野木、篠塚、高木、竹内）のほか、水庫、金城といった面々で、自由が丘近辺のグルメを楽しむ趣旨の会であった。

最後になるが「商社9条の会」がある。この会はこれまで幾多となく高名な講師による講演会を開催してきた。会場で彼に会ったのはほんの数回だったし、彼と政治がらみの話をとことんやりあったという記憶もない。しかし或る時私の書いた政論を目にした彼が、私の論旨に賛同してわざわざ電話をよこしてくれたことが思い起こされる。

これを要すれば、理想としてのわが国の平和（憲法9条の堅持）は、現実の政治（日米安保体制の維持）とのバランスの中でのみ実現可能である、とする哲学者ヘーゲル風の「絶対的同一論」であり、「真理は全体である」とする私の哲学であった。

末尾ながら故人のご冥福をお祈りして筆を折りたい。

合 掌

張炭鉦に勤務し、高圧容器取り扱いの免許を持って居たためニチメンの独身寮（南柏寮）の管理人となったと聞いております。小生との出会いは、1978年（昭53年）8月末。小生が大阪から東京に単身赴任した時から始まります。

当時（今もそうであるが）ゴルフに狂っていた小生は隔週大阪に帰省しない週末は、寮の鳥籠（3打席ある）で朝早くから球打ちに勤しんでいました。

寮生の中から「うるさい」と文句を言う御仁もいましたが、こちらは一向にお構いなく練習に専念していました。そうした処に松川さんがひょっこりと現れフォームの悪い所（当時の小生のフォームと言え丸っきり自己流で、樋口久子張りのオーバースイング。クラブが左肩を大きく回り、右足の膝が右方向に動く誰が見ても可笑しいフォームだった）をあれこれワンポイントアドバイスしてくれ大いにフォーム改善に役立たせて頂きました。

とにかく強調された点は右足膝を正面に向けたまま、テークバックの折には進行方向にフォワードプレスする気持ちで、絶対に右側には動かさない事。この松川師匠のアドバイスがこれ以降大いに役立ち、かなりスコアも上昇したことは間違いない。

又、寮の中庭には綺麗な芝生が敷かれていて20-30ヤード位のアプローチには最適だったため叱られる事覚悟でロストボールを持ち出し練習していた処に又もや松川さんが現れ（禁止されるものと思っていたが）意外にも彼も一緒に練習に加わったのには驚きだった記憶があります。彼は、昔独身寮内のテニスコート横に会社に無断でバンカーを作り会社から叱責されたと伝え聞いております。左程にゴルフに対して強い熱意を持っており理解をしてくれたと了解しています。

とにかく、松川師匠のすごい点は、ドラ

イバー・アイアンなどの飛距離は普通（並み）なのにショートアプローチ、特にバンカーショットなどの小技が超の字が付く程優れていた事。これは決して勝負を諦めないと言うネバーギブアップの精神と集中力が他人以上にあった為と了解しています。

彼とは度々ゴルフのラウンドや練習をさせて頂きました。

特筆すべきは、彼のお誘いで小生も1980年頃正式会員に入会した「富士カントリー笠間倶楽部」（ニチメンがゼネコンとなり設立したコース：茨城県笠間市）で初代クラブチャンピオンを獲得したことです。現在でもコース内の壁のボードに彼の名前は一番上に残っており我々ニチメン笠間会のメンバーの大いなる誇りとなっております。

彼との数々の忘れられない思い出を2・3ご披露させて頂くと。

(1) 先ず、彼と一緒に「ジャンボ尾崎に挑戦」全国放映のTVに参加した話。

結果は残念ながら1敗2引き分けで負けてしまいました。（参加したのは松川さん・山下君と小生の3名。対戦コースは茨城県大子町の鷹彦スリー。ジャンボが建設途上のコースを買収し仮オープン中だった。）その時のTV収録は3週間分を一日録画するスタイルで、A/B/Cのアマ三チームとジャンボが対戦。（3人のアマのベストボール対ジャンボ）

我々ニチメンチームはBチームでホール4番から6番ホールが対戦ホール。

従って、Aチームが1-3番ホールを回って来るまで4番ティーグラウンドで待機し、TVカメラは所定の場所にスタンバイしていた。

ジャンボがそこに到着し、先ずコスチュームを着替えて（同じものでは具合が悪い）おもむろに我々の身上書（各人ゴル

フ歴と現在のハンディキャップなど)を見た途端、ハンディ合計19(松川さん:5, 山下君:7, 小生:7。全員シングル)だったので「何だ、これはオイチョ株だ」このティーグラウンドでは駄目だ、としてセットしていたカメラをわざわざ、後ろにセットし直しレギュラーティーからバックティへの変更を無理やり行った。

第一番目の4番ホールは、小生が4番アイアンで2オンしジャンボはウエッジで乗せお互いに2パットのパーで引き分け。

第二番目の5番ホールは200ヤードを超える長いショートホール。(レギュラーだったら170-80ヤード位だったはず)

松川さんと相談し彼が3番ウッドでワンオンに成功。小生は4番ウッド。山下君は何番で打ったか記憶にないがとにかく右左に球が乱れお任せ状態。一方のジャンボは4番アイアンでワンオン。松川さんとジャンボがお互いに2パットのパーで又もや引き分け。

最終ホールの6番、距離は460-70ヤードの距離の長いミドルホール。

とても小生達の腕では2オンは無理なホール。ジャンボは、ロングティー(10センチ以上もある長いティーペッグ)でドライバーを打ち何とセカンドを7番アイアンで2オンに成功、難なくパーをゲット。こちらは松川さんと一緒にアプローチを頑張るも3オン2パットのボギー。ここで残念ながら負けが確定。(この時の随行プロは佐藤精一プロ)

今回松川師匠と初めてプロゴルファーとラウンドさせてもらったが、プロの勝負に対する執念には改めて再認識をさせてもらった。

(即ち、例え相手が素人であっても決して負けないよう心掛けている事。これは負け癖を付けない為か?)

余談ではあるがこのジャンボと対戦した

何年か後富士笠間で青木功の弟子、渡辺司プロとハーフをラウンドさせてもらうチャンスがあったが、彼はそれなりにファンを大切にするサービス精神が旺盛であったと記憶する。

(2)次の話は彼が特に活躍した「全日本商社連合ゴルフ大会」の話。

彼とはニチメンゴルフ部と一緒に活躍させてもらったが、その中でも「全商社大会」と言う年二回開かれる総合商社10社の会があり、8名参加し上位7名合計スコアでグループ(会社対抗)で対戦する大会。

我々ニチメンは何度もここで上位入賞(優勝も数回出来たと記憶)し個人戦では松川さんは2回以上は優勝し、全商社の中でも知らない人もない程の有名人であった。(勿論、ハンディ無しのグロス勝負)

(3)講談社主催の「オリンピック杯争奪戦」

又、対外試合としては、講談社が夕刊フジに対抗しタブロイド判の夕刊「日刊ゲンダイ」を発行し始めた折、記事の中にゴルフ欄を書くため、実業界の一流会社を集め対抗戦「オリンピック杯争奪戦」を企画。我々ニチメンにも声が掛かり松川さんと小生が二人一組で参加させてもらった。仕事の関係で1年がかりの対戦となったが、最終的には我々ニチメンチームと「東急ホテルチェーン」との決勝戦となった。

結果は、

ニチメン：松川43・41 = 84、
小生40・44 = 84 合計 168
東 急：坂口42・38 = 80、
田村44・46 = 90 合計 170

優勝賞品は、ボロンシャフト(釣り具メーカーのオリンピック製。当時はやり始めた高級材料のナサボロンのオーダーメイドのドライバー。一本25万円すると言われた。)を二人してゲットさせてもらった。

この時の日刊ゲンダイの記事(昭和61年

3月30日付け)はセピア色に変色してるが、今でも後生大事に保管している。

(4)歴史と伝統のある長寿の会「ニチメン笠間会」

最後に「ニチメン笠間会」について言及しない訳にはいかない。

この会については、終身会長の石原靖造会長が東京社友会会報(第23号、P-31、2017年12月1日発行)にも投稿されているのでご存知の方も居られるとは思いますが、現在開催回数330回を超える長寿の会でメンバーには、吉本邦晴さん・桜井潤一さん・望月清夫さん(ニチメン出入りの印判業:松川師匠とは親友の仲)・川崎毅さん・榊湯磐夫さん、そして最近では岡島隆司君・丸田秀君・上田吉彦君・南部匠君など若手の加入を得て若返りを図っている、ゴルフを心から愛する錚々たる人達多士済々の会である。(今ではクラブ握ってないがかつては中心的な役割を担っていた矢島孝さんも当会のメンバーであった。)

そうした歴史のある当会の最初からのオリジナルメンバーだった松川さんは、常時毎回ベスグロをゲットし、メンバーの中からベスグロは廃止しようではないかの意見

も出るほどの超強豪メンバーであった。老境に入った最近では技術顧問というステータスでメンバーの技術向上に真摯なアドバイスを常に行ってくれ生きる教本だったことは万人が認める処。(ニチメン笠間会特別ルールでラウンド中でも技術アドバイス有りとなり彼から色々アドバイスを受けたメンバーは数多い。)

彼は最終的に富士笠間のオフィシャルハンディを「4」とし、我々の仲間内では誰もここまで達成したメンバーは未だいない。

彼とのゴルフの思い出はマダマダ尽きないのでこころで終わりとしませんが、とにかく、彼のゴルフに対する愛情と熱情は半端でなく技術とそのマナーなど多くの人から尊敬される素晴らしいゴルファーだったことは間違いありません。

いつの日かあの地の「天国カントリー」で一緒にラウンド出来ることを楽しみにこのあたりで筆を置くことにします。

それにしても惜しい人物を失ったものだ!! 安らかにお眠り下さい。



五十川暉夫さんを偲ぶ

奥村 睦夫

令和2年12月10日永眠されました（享年80歳）。

奥様から訃報が届き、びっくり仰天。

令和元年9月の詩吟発表会（於、イイノホール：双日本社が入る飯野ビル3F）当日、B1のレストランでの奥様、お嬢様同席でのランチが思い出されます。その発表会関連のご投稿（会報29号）をいただき、あれこれメール交換したのが、昨年10月始めでした。

想えば、五十川さんとの出会いは、1969年9月19日（金）ジャカルタ市内のチキニホスピタル。

急性肝炎で入院中の山守興治さんをお見舞いしていたその時に、出張帰りの五十川さんとバッタリ。

以来、公私ともにあれこれとお世話になり、半世紀もの長いお付き合いとなりました。

氏の回想録によると、「入社4年目の昭和43年6月ジャカルタへ、サマリダ、バリックパパン、バンジャルマシン（誰が言ったか別名：東洋のベニス）、スマトラ各地で原木仕入業務を担当、更に北マルク州・オビ島でスタートした我が社の森林開発プロジェクトにも従事。」とあり、日綿実業インドネシア産原木輸入商いの黎明期であり、五十川氏はパイオニア的存在でした。

回想録に、ネシアについて“こんなところ、二度とこないぞ！ひどく、つらく、大変なことが多かったネシア、2年間一時帰国もできず、新妻にも一度も会えず、……それなのになぜかよい思い出と感動場面が頭に残り、未だに懐かしい。結局、2度、3度と都合6年間駐在することになってしまった”とある。お会いする度に、“もう一度ネシアへ行きたいなあ〜”と、……

ここで、1960年代、70年代初めのインドネシアでの木材搬出（運材）について解説しますと、木材は重量物。一般的な南洋材は比重が0.5～1.05までとかなり重く、水面に浮かばず沈んでしまう丸太もあります。重機が少ない時代、ジャングル内伐採地からの搬出に「横木」を並べ“コロの原理”で滑らせる方法を考え、人力で引っ張るようになりました（写真参照）。この方法は日本国内でも一般的で、エジプトのピラミッドの石材、お城の石垣用石材運搬と同じような方法です。

やがて、ブルドーザー、スキッダー、トラック等の普及による“機械出し”が始まり、現地資本に対する伐採権獲得の為の融資など絡めて大手商社による森林開発競争が始まるようになりました。



人力出し：人と比べると丸太の大きさがわかる
ネシア語でこの丸太を“カユ・クダクダ”と言います
カユ＝木材　クダ＝馬



機械出し：トラックを「山大王：サンタイオン」と言い、華僑達が改良した元米軍用トラック。



2014年2月、名古屋にて

当時、なぜ筆者がジャカルタに滞在してたのかと言いますと、日綿実業入社（昭和45年）も決まり、昭和44年8月1日～10月17日、大学紛争を横目に夏休みを利用し大学（農学部林学科）同窓3名を誘い入社後に担当するであろう南洋材の産地である東マレーシア・サバ州サンダカン、インドネシアを私的に研修旅行中で、ジャカルタ滞在時に五十川さんにお目にかかったわけです。

同時に、名島憲一郎様には大変お世話になりました、この紙面を借りて御礼申し上げます。

そして、昭和46年11月に筆者もジャカルタ長期出張となり、五十川さんなど諸先輩が開拓された日比ネシア3か国による「OBI島森林開発プロジェクト」に従事することになりました。



1972年帰郷の際、ジャカルタ市内アンチョールにて、ボーリングに興じた。
*木材部内地得意先からの出向者（村上さん、椿さん、品田さん）と駐事の事務員たち

五十川さんは昭和40年入社、三度のインドネシア駐在、東阪名での国内内販業務を経てニチメン総合建材(株)（現双日建材(株)）を定年退職されるまで木材畑一筋。退職後も名古屋城近くのご自宅を拠点に「森林インストラクター（別名：森の案内人）」として多くの市民を森林に案内されました。

森林と樹木と自然を大事にされた人生でした。

五十川氏が、ソロ近くの「サンギラン遺跡」：ピテカントロプス・エレクトゥス(ジャワ原人)を見たいとのことで、当時、ジャカルタ滞在中の筆者が仕事の合間に同行した。氏の最後のネシア訪問でした。

長い間、お疲れさまでした、ゆっくりとお休みください、合掌！



2011年11月9日、中部ジャワ・ソロ近くで「ドリアン」を味わう。
筆者、村上さん、五十川さん

◎ 会 員 動 向

2021年6月30日現在

新規加入者（敬称略）

服部輝夫 中村剛 渡部俊英 島靖久 中尾弘久

退会者（敬称略）（2020年度）

石川博保 上房康成 笠井公雄 風間和彦 三枝伸 谷道夫 三村武史

資格喪失者（敬称略）（会則 11条3項により、会費を2年間以上未払の場合が該当いたします。）

菰田雅治

連絡が途絶えている方（敬称略）

石川勝美 上野道明 内田鏝一

（連絡先をご存知の方は、事務局・世話人へお知らせ願います。）

新入会員募集中

皆様の周りで未加入の方がいらっしゃいましたら是非勧誘いただきたく思います。

本会の会則に同意して、会費を納入頂けるなら会員になれます。

（ニチメン、ニチメンの関連会社に在職したことのある方が対象になります。）

◎ 2020年度(2020年7月～2021年6月)年会費(3千円)入金状況とお願い

2021年6月30日現在

会員数	入金済会員	長寿会員(註1,2)	終身会員	未納会員
421	352	44	8	17

** 2019年度分未納者数 ** 1

尚、来年度（2021年7月～2022年6月）年会費 納入済の方→ 92 (註4)

お願い：

2020年度会費を未納付の方は当年度会費と合わせ至急の納付に ご協力下さい。

当会会則第11条の規定により2期分の会費未納者は会員資格喪失となります。

振込先は、下記いずれかを利用して下さい。(振込手数料は各自ご負担願います。)

1) 郵貯銀行

口座番号 : 00100 - 4 - 318041

口座名義 : ニチメン東京社友会

2) 三菱UFJ銀行 東京営業部 普通口座

口座番号 : 8225155

口座名義 : ニチメン東京社友会 代表 石原啓資

振込に際しましては、振込者名欄にご自身の名前を最初に左詰めで記載願います。

(ネンカイヒ、ニチメン、XXネンドカイヒ等の記載があると振込者名が通帳に記載されず、振込者が特定できません。)

(註1) 長寿会員は年会費免除になっておりますが、長寿会員からご送金を頂いた場合は当
 当会へのご寄付とみなし処理させていただきます。(会運営上大変助かります)
 但し、何らかの手違い等であれば事務所までご連絡下さい。

(註2) 長寿者氏名：(50音順 敬称略)：44名

青木繁行	石川勝美	糸井康雄	伊藤安雄	岩居宏一	宇治田薫	海野敏夫
大久保海生	大塚静子	大野久生	大森啓作	河西良治	上條達雄	亀田 昭
木内純一	菊池省三	北川 敬	古藤彰三	小林斉之介	近藤貞一	桜井潤一
三分一克美	高瀬 裕	高田秀子	伊達邦雄	西奥薫尚	西村 弘	橋爪 覚
平岡昭三	廣瀬一彦	深尾 孝	福富直明	古川 熙	松尾憲一	松田 實
松村信男	松本忠夫	松本寿夫	水庫博夫	溝江博三	三宅 葉	宮田信雄
望月昌徳	吉田孝生					

今年長寿者になられた方：18名

<<今年度(21年度)からの会費が免除になります。>>

石原靖造	大崎隆三	大谷毅丈夫	勝田泰司	栗田久彌	斎 富造	柴田 実
島田俊彦	津田賢一郎	永井清光	西田 昇	芳賀信明	林 義人	廣田雄太郎
牧 洋生	村井靖武	八津道夫	山岸正雄			

(註3) 終身会員 (50音順 敬称略)：10名

入江隆史	岩田 功	奥村睦夫	唐崎和彦	千田俊章	土橋昭夫	榊山俊次
宮本正博	新藤 孝	大羽陽一郎				

(註4) 2021年度(2021.7～2022.6)年会費納入済会員 (50音順敬称略)：92名

<<今年度は、振込不要になります。再来年に、22年度分の振込をお願いいたします。>>

青木聡弥、青木政和、赤澤宏哉、我妻寿一、浅井正彦、浅子豊治、浅利真司、東信子、
 天野雅光、甘利廣、新井康友、石黒由紀子、石原啓資、伊藤尚志、今井明、入野英次、
 上田吉彦、岡島岩男、岡田茂、沖田隆彦、小田有久、数森正彦、勝田泰司、北川幸雄、
 喜多嶋雄徳、木寺厚二、黒住厚、桑島有一、小寺大輔、小松繁範、古谷野和夫、齊藤至弘、
 五月女穰、坂井辰雄、桜井征夫、佐渡隆、篠塚美郷、島靖久、菅沼利太郎、菅谷省三、
 杉浦俊之、鈴木広明、陶山晃、高橋正、竹内可能、田尻眞啓、田所忠彦、田中弘、丹下薫、
 津田賢一郎、土橋勇、豊福清二、永井清光、中尾弘久、中島和彦、永田堅志郎、中谷宣英、
 中原正紀、名島憲一郎、西川周、西川洋、西田昇、西野幸夫、庭野松三、野城恒男、野本定男、
 蓮沼恒郎、林義人、蛭田恒美、細井吉一、細谷和夫、秀真正彦、堀江亘、堀典代、堀部暁、
 本間登志雄、前田孝、牧洋生、松坂茂、松本宰子、水野英幸、水堀勤、宮尾迪子、本松巖、
 安井修司、山岸正雄、山口一光、山邑陽一、吉川浩、吉木健、吉本邦晴、渡辺重幸

(註5) 2020年10月以降で 寄付をいただいた方々

大塚静子 住吉美智子(住吉哈爾雄夫人) 今井宏臣 三枝伸

ニチメン東京社友会会員名簿 (2021年06月25日現在)

広報チーム

ア行：98名

相原淳雄	青木聡弥	青木繁行	青木 浩	青木政和	赤城枝美
赤澤宏哉	阿賀信夫	秋田 久	我妻寿一	阿久津佳子	浅井正彦
浅子豊治	浅利真司	芦村八郎	東 信子	穴田清和	天野雅光
甘利 廣	新井康友	荒木武雄	池田照幸	池永 浩	石井光雄
石川勝美	石川博保	石川 満	石黒由紀子	石原 清	石原啓資
石原靖造	泉 伸夫	五十畑利枝	井田龍夫	井田正従	市川伸江
糸井康雄	伊藤尚志	伊藤安雄	糸川良平	井上正博	今井 明
今村隆夫	入江隆史	入野英次	岩居宏一	岩井 修	岩上敦司
岩田 功	上田吉彦	上野通明	植村邦彦	上村哲嗣	宇治田薫
内田鉄一	内田宗興	内山田純一郎	内海和男	梅原郁朗	海野敏夫
浦野由紀夫	漆崎隆司	大北克利	大久保海生	大崎隆三	大曾根弘之
太田弘之	大田義美	大建雄志郎	大谷和夫	大谷毅丈夫	大塚静子
大塚健夫	大野悦良	大野久生	大場禎治	大林はる美	大羽陽一郎
大平栗雄	大村善勇	大森啓作	大山陽子	岡 敦彦	岡島岩男
岡田 茂	岡部健太郎	小蒲智臣	小川 桂	小川哲郎	沖田隆彦
奥村睦夫	小田有久	越智栄史	尾上鉄一	小野賢次	小野宗一
小野 稔	尾羽澤正敏				

カ行：60名

垣田佐代子	河西良治	風間和彦	数森正彦	勝井嗣雄	勝田泰司
加藤資一	金田正博	鏑木順治郎	蒲澤信男	上條達雄	亀田 昭
唐崎和彦	川崎秀憲	川西 勲	川畑正巳	川本寿彦	上林正嗣
木内純一	菊池省三	木皿重正	木津奈緒子	北井暁夫	北川 敬
北川幸雄	北川嘉雄	喜多嶋雄徳	北野秀明	木寺厚二	木下龍三
木村敬男	京野 勉	金城弘明	久世清司	轡 健一	国峰信成
久芳 成	窪田厚三	倉又則夫	倉持次雄	栗田久彌	栗原靖幸
黒木俊二郎	黒住 厚	黒田克弘	桑島有一	古藤彰三	後藤厚治
五島慎二	後藤政郎	小西重勝	小西正純	此田哲也	小林齐之介
小林正史	小松繁範	菰田雅治	古谷野和夫	近藤厚子	近藤貞一

サ行：46名

斎 富造	斎藤勝吉	斎藤勝義	斉藤至弘	五月女穰	坂井辰雄
坂井良司	佐久間正光	桜井潤一	桜井征夫	笹原 弘	佐藤悦三
佐藤三朗	佐藤武宣	佐藤光治	佐藤由紀恵	佐渡 隆	佐野 進
沢井二三一	三分一克美	篠塚美郷	柴田 実	渋谷 義	渋谷和雄

島 靖久	島田俊彦	清水武人	下浦通洋	霜鳥雅徳	白石哲也
白坂泰之	新藤 孝	陣内義夫	菅沼利太郎	菅野幹二	菅谷省三
杉浦俊之	鈴木讓治	鈴木広明	須藤忠昭	陶山 晃	関根潤治
瀬在道晴	芹生 宏	曾我宏司	外林俊浩		

夕行：48名

大工原正徳	高木恒久	高木正博	高瀬 裕	高瀬允宏	高田秀子
高橋卓子	高橋 正	高橋正尚	高濱 悟	田上桂作	高見恒博
田鎖正浩	竹内可能	武田尚憲	竹村 豊	田尻眞啓	田代充穂
橘 行雄	伊達邦雄	田所忠彦	田中 謙	田中孝平	田中伸介
田中聡太郎	田中 勤	田中 弘	谷 昌興	玉井一幸	田村達也
田村順子	丹下 薫	丹野和廣	千田俊章	津田賢一郎	土田成穂
土屋秀雄	角掛康弘	寺川行弘	外村和之介	土橋昭夫	土橋 勇
富岡矩子	富田 仁	富田 保	豊木啓喜	豊福清二	豊間根政行

ナ行：32名

永井清光	長井 誠	中尾舜一	中尾弘久	中川十郎	中島和彦
中田龍彦	永田堅志郎	中谷宣英	中西真佐裕	中野次夫	中原正紀
中村静人	中村 剛	名島憲一郎	滑川和子	成宮正和	南部捷郎
西奥薫尚	西川 周	西川真司	西川 洋	西田武弘	西田 昇
西野幸夫	西村昭男	西村照男	西村輝男	西村 弘	庭野松三
野城恒男	野本定男				

ハ行：58名

芳賀信明	橋口喜郎	橋爪 覚	橋本昌二	橋本文宏	橋本昌美
蓮沼恒郎	長谷川尚	長谷川洋	初又惇夫	服部輝夫	花澤和郎
濱田健滋	浜地道雄	林 博之	林 正弘	林 義人	半林 享
樋口龍彦	久武雅志	久本紘一	平井清文	平石 豊	平井出良彦
平岡昭三	平尾龍介	平野 勉	蛭田恒美	比留間玲子	廣内卓生
廣瀬一彦	廣田雄太郎	廣本昌也	深尾 孝	福井芳樹	福島有恒
福富直明	藤井敬三	藤井正之助	藤井宏憲	藤澤裕武	古川 熙
古澤陽一	古家 章	逸見勝衛	星合良彦	保科 孝	星野則和
細井吉一	細谷和夫	細谷 聡	堀田恒雄	秀真正彦	堀江 亘
堀 典代	堀部 暁	本田 務	本間登志雄		

マ行：45名

前田征雄	前田 孝	牧 洋生	榊瀧磐夫	榊山俊次	松浦 淳
松尾憲一	松岡秀樹	松坂 茂	松沢幸雄	松田邦夫	松田 實
松野 弘	松村信男	松村森男	松本宰子	松本忠夫	松本寿夫
丸野 純	三浦甲蔵	三木照男	水庫博夫	水野英幸	水野隆二
水堀 勤	溝江博三	箕作武彦	三原 均	宮内義彦	宮尾迪子
三宅 葉	宮田信雄	宮本尚樹	宮本正博	武藤満夫	村井靖武

訃 報

(前会報29号報告後～2021年6月判明分になります)

ニチメン東京社友会

※非会員

	氏 名	出身部門	ご逝去年月日	享 年
1	※土 田 博	船舶	2018年 5月 2日	69歳
2	※山 守 興 治	木材	2019年12月 6日	79歳
3	中 谷 喜 良	調査広報	2020年 3月 1日	88歳
4	内 田 英 三	機械	2020年 8月 3日	88歳
5	※横 山 正 巳	化学品	2020年 9月28日	87歳
6	田 中 偉 堯	業務	2020年10月15日	80歳
7	市 川 元 久	法務	2020年10月18日	89歳
8	※川 端 勝四郎	静岡支店	2020年11月23日	78歳
9	川 崎 恵美子	総務	2020年12月 2日	88歳
10	住 吉 哈爾雄	燃エネ	2020年12月 7日	85歳
11	※湯 浅 隆 司	管理	2020年12月15日	84歳
12	※松 川 力 男	総務	2020年12月19日	88歳
13	大 西 勇	副社長	2021年 1月14日	89歳
14	佐 藤 統 次	機械	2021年 1月17日	82歳
15	黒 川 智 水	機械	2021年 1月31日	81歳
16	※西 田 稔	非鉄	2021年 2月 2日	85歳
17	新 野 敬 一	機械	2021年 2月 6日	92歳
18	小 橋 雅 寛	機械	2021年 2月 9日	85歳
19	丸 山 泰 三	財務	2021年 2月 9日	91歳
20	村 岡 治 夫	鉄鋼貿易	2021年 2月18日	73歳
21	※富 永 辰 男	非鉄	2021年 2月22日	80歳
22	※水 野 和 也	機械	2021年 3月28日	67歳
23	河 路 浩 吉	機械	2021年 4月10日	84歳
24	小 寺 大 輔	機械	2021年 4月14日	79歳
25	今 井 宏 臣	総務	2021年 4月20日	86歳

ニチメン大阪社友会

※非会員

	氏 名	出身部門	ご逝去年月日	享 年
1	上 田 浩	機械	2019年 9月24日	92歳
2	中 村 鼎	紙パ	2020年 6月28日	93歳
3	四 方 正 汎	木材	2020年 7月 9日	88歳
4	濱 田 昌 子	総務	2020年 7月 某日	85歳
5	田 中 務	役員	2020年10月29日	86歳
6	河 合 康 雄	監査	2020年11月 1日	92歳
7	田 中 三 郎	運輸保険	2020年11月 4日	95歳
8	土 井 健 司	繊維	2020年11月 7日	85歳
9	初 田 禎 夫	審査	2020年11月13日	90歳
10	稲 田 一 雄	繊維	2020年11月20日	87歳
11	南 直 昌	機械	2020年12月 1日	84歳
12	五十川 暉 夫	木材	2020年12月10日	80歳
13	日 野 起 男	経理	2021年 1月29日	88歳
14	平 岡 貞 治	役員	2021年 2月27日	89歳
15	谷 手 義 一	繊維	2021年 3月23日	86歳
16	青 島 和 夫	繊維	2021年 4月19日	76歳
17	森 正 子	人事	2021年 5月11日	91歳
18	金 井 伸 夫	繊維	2021年 5月19日	89歳

ご冥福を、お祈りいたします。合掌

【編集後記】

「会報」30号をお届け致します。今回も多くのご寄稿をいただきあつく御礼申し上げます。今号がお手許に届くころには、五輪が大過なく終了しているであろう事を祈るばかりです。

この1年半ほど、自室にいることが多く、会報編集作業の合間に、昔見た・見逃がした懐かし名画（BS放送他）で和んでおりました。ユル・プリンナー「荒野の七人」等の西部劇、「大脱走」「キングコング」「ラストエンペラー」「天地創造」「眼下の敵」「クレオパトラ」「ガンジー」「エアフォースワン」「猿の惑星」・・・。



憎むべきコロナウイルスが感染力を増しつつあり、コロナ禍が長引いております。会員各位におかれましては「自己防衛」され、「新年賀詞交歓会」には、お元気なお姿を拝見できますよう世話人一同お待ちしております。

広報チームよりのお願い：

次号（31号）の紙面を充実する為に皆さまからの多数のご投稿をお待ちしております。会員相互の情報提供、随筆、エッセイ、珍譚奇譚、書評、同好会・同期会・OB会報告、アーカイブス写真（各種会合、仕事関連、課外活動等）等、以前の各号の掲載内容を参考にされ、ご投稿いただきますようお願い致します。

一方、ホームページの「ふれあいの広場」欄に、①「旅行」②「花や景色」③「読書感想文」④「温泉情報」⑤「健康」⑥「趣味」⑦「美味しい食べ物の店や食べ方」の7つのジャンルを設けておりますので、内容をご覧の上、随時ご投稿ください。

「ニチメン東京社友会」をインプットすれば、ヒットできます。

- 投稿文送り先、問合せなど ⇒ 
- 郵送の場合 ⇒ 
- 会報次号（31号、2021年12月1日発行予定）へのご投稿の締め切り
⇒ 2021年10月31日（日）

（奥村 睦夫）

ニチメン東京社友会

〒100-8691 東京都千代田区内幸町2-1-1
飯野ビルディング8F

会報発行人：石 原 啓 資

編集担当・広報チーム

リーダー：奥 村 睦 夫

メンバー：入 江 隆 史 中 田 龍 彦

森 田 淑 子

印刷所：有限会社 関内印刷